Ginkyo

銀杏学園通信 ぎんきょう

www.kumamoto-hsu.ac.jp

46
2022 夏
Take Free

特集
SPECIAL FEATURE

●健康・スポーツ教育研究センター開設
●学生3団体リーダー座談会

特集1/健康・スポーツ教育研究センター開設 2
特集2/学生3団体リーダー座談会 4
News&Topics 6
未来の巨匠 松尾 健志郎さん（大学院 リハビリテーション領域1年） 8
新任教職員紹介 9
研究室紹介 10
令和4年度入試結果 11
ふれあいSALON 12
新入生インタビュー 13
令和3年度 著書論文歴 14
令和3年度 学会発表 18
決算・予算・事業報告・事業計画 22
国際交流/Library/基本理念/教育目標/将来ビジョン 27
令和5年度 入試概要/熊保大夢基金/オープンキャンパス 28

研究室紹介 Laboratory Report 松尾研究室 10P

大学院 リハビリテーション領域 1年
河口 向日葵 さん

研究への意欲を高め合える空間

令和5年度 熊本保健科学大学 入試概要

■ 募集人員

学部	学科／専攻		募集人員	合計
保健科学部	医学検査学科		100名	340名
	看護学科		100名	
	リハビリテーション学科	理学療法学専攻	60名	
		生活機能療法学専攻	40名	
		言語聴覚学専攻	40名	

■ 入試区分別募集人員（保健科学部）

入試区分	総合型選抜*	学校推薦型選抜 指定校	学校推薦型選抜 公募	一般選抜	大学入学共通テスト利用選抜 前期日程	大学入学共通テスト利用選抜 後期日程	特別選抜 社会人	合計	
医学検査学科	5名	20名	25名	40名	5名	5名		100名	
看護学科	5名	15名	30名	40名	5名	5名		100名	
リハビリテーション学科 理学療法学専攻	4名	12名	14名	23名	4名	3名	若干名	60名	140名
リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻	3名	8名	9名	15名	3名	2名	若干名	40名	
リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻	3名	8名	9名	15名	3名	2名	若干名	40名	
合計	20名	63名	87名	133名	20名	17名	若干名	340名	

＊ 総合型選抜タイプA（奨学金あり）の募集人員です。タイプB（奨学金なし）は、各学科・専攻ともに若干名の募集となります。

■ 入学試験日程一覧（（保健科学部）

入試区分		出願期間	試験日	合格発表	入学手続
総合型選抜		〈エントリー期間〉令和4年9月1日(木)～9月9日(金)〈出願期間〉令和4年10月3日(月)～10月12日(水)	10月22日(土)	11月1日(火)	令和4年11月1日(火)～11月15日(火)
学校推薦型選抜	指定校	令和4年11月1日(火)～11月11日(金)	11月19日(土)	12月1日(木)	令和4年12月1日(木)～12月15日(木)
	公募				
一般選抜		令和5年1月4日(水)～1月26日(水)	2月4日(土)	2月16日(木)	令和5年2月16日(木)～2月24日(金)
大学共通テスト利用入学選抜	前期日程		個別試験なし		
	後期日程	令和5年2月17日(金)～2月27日(月)	3月3日(金)	3月10日(金)	令和5年3月10日(金)～3月17日(金)
特別選抜	社会人	令和4年10月17日(月)～10月28日(金)	11月5日(土)	12月1日(木)	令和4年12月1日(木)～12月15日(木)

■ 入学試験日程一覧（助産別科・大学院・キャリア教育研修センター）

助産別科入試区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
推薦入試	令和4年10月17日(月)～10月28日(金)	11月5日(土)	11月11日(金)	10名
一般入試	令和4年11月14日(月)～11月28日(月)	12月3日(土)	12月9日(金)	10名

大学院入試区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
推薦選抜	令和4年10月17日(月)～10月28日(金)	11月5日(土)	11月18日(金)	10名
出願資格審査	令和4年10月1日(土)～10月12日(水)			
社会人選抜（Ⅰ期）	令和4年10月17日(月)～10月28日(金)	11月5日(土)	11月18日(金)	
出願資格審査	令和5年1月26日(木)～2月3日(金)			
一般選抜	令和5年2月8日(水)～2月20日(月)	2月25日(土)	3月3日(金)	
出願資格審査	令和5年1月26日(木)～2月3日(金)			
社会人選抜（Ⅱ期）	令和5年2月8日(水)～2月20日(月)	2月25日(土)	3月3日(金)	

キャリア教育研修センター入試区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
認定看護師教育課程（認知症看護分野）	令和4年11月14日(月)～12月9日(金)	1月7日(土)	1月17日(火)	12名
特定行為研修課程	令和4年11月14日(月)～12月9日(金)	1月7日(土)	1月17日(火)	2名

入試に関するお問い合わせ 熊本保健科学大学 入試・広報課 TEL.096-275-2215（直通）
〒861-5598 熊本市北区和泉町325番地 E-mail：nyushi@kumamoto-hsu.ac.jp https://www.kumamoto-hsu.ac.jp

「熊保大夢基金」お礼とお願い

本学園では、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実を目的として、「学校法人銀杏学園 熊保大夢基金」への寄付をお願いしております。令和3年度におきましても68件、30,542,676円の御寄付を頂き、この場を借りて心から御礼申し上げます。感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。

ご芳名(掲載に御許可を頂いた方のみ、五十音順)
赤池紀生様　(合)オクフィー様　神孝輔様　菊南病院様　喜佐田智子様　くまもと南部広域病院様　KMバイオロジクス(株)様
嶋松陽子様　白川秀憲様　瀬戸口直美様　高野眞様　牧野昭人様　松江龍起様　矢浦洋子様　廣瀬英治様

頂いた御寄付は、学内実習設備の拡充や教育支援サービスmanaba(マナバ)導入等へ活用させて頂きました。引き続き基金の趣旨に御賛同頂きご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

詳細につきましては同封の「寄付金 募集要項」または公式WEBサイトhttps://www.kumamoto-hsu.ac.jpを御覧頂くか、本学経理課までお問い合わせ下さい。また、令和2年度以前に頂いたご寄付等に関しましても、ご芳名掲載御許可の御一報を頂ければ幸いです。

Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE since 2004
UNIVERSITY
2020.4－2027.3

熊本保健科学大学では、公益財団法人日本高等教育評価機構において令和2年度大学機関別認証評価を受審し、令和3年3月16日付けで同機構が定める大学評価基準に適合していることが認定されました。
本学では今回の認証評価の結果を踏まえ、今後も更なる向上に努めて参ります。

ぎんきょう
GINKYO GAKUEN TSUSHIN GINKYO 銀杏学園通信"ぎんきょう" No.46 発行日／2022年8月31日
発行 学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学 〒861-5598 熊本市北区和泉町325番地 TEL096-275-2111 FAX096-245-3126 https://www.kumamoto-hsu.ac.jp

GINKYO 特集 1 SPECIAL FEATURE

開設情報

Research Center for Health and Sports Science

健康・スポーツ教育研究センター

社会的養成の高い調査・研究・教育を積極的に推進

CONCEPT

「知識・技術・思慮・仁愛」の四綱領に基づくメディカルスタッフ養成の基盤を支えるため、健康とスポーツをキーワードにした社会的養成の高い調査・研究・教育を積極的に推進します。

健康・スポーツ教育研究センターは令和4年4月に発足し、等速性筋力評価訓練機器・呼気ガス分析装置・3次元自動動作分析装置・筋電計・超音波などの計測機器と高度なトレーニング機器を併設したアスリートゾーンと一般のトレーニング機器を導入したフィットネスゾーンを提供する事で、アスリートから高齢者・子供まで様々な世代の持続的な健康日本の活性化を目指します。

PROJECTS & VISION

POINT 01 **調査・研究** Research

POINT 02 **スポーツヘルスサイエンス事業** Sports Health Science Projects

POINT 03 **次世代イノベーション** Innovation for Next Generation

01 調査・研究

「心・技・体」に関する調査・研究を実施します。
アスリートから、子供・高齢者まで還元型の研究開発に取り組みます。

02 事業

スポーツ・健康増進・研究開発の3部門により、健康・スポーツに関するプロジェクトに取り組みます。

03 イノベーション

産官学連携による健康増進やスポーツに関するイノベーションの創出に取り組み、健康・スポーツの持つ力を最大化します。

MEMBERS

- 楢原　真二 教授・センター長
- 松原　誠仁 准教授・副センター長
- 益滿　美寿 准教授
- 鏑木　誠　講師
- 枝尾　久美 講師
- 本田　啓太 講師
- 久保下　亮 講師
- 荒木　理恵 特任講師
- 中村　祐貴 事務職員

運営部

スポーツ	健康増進	研究開発
Sports Science	Health Science	Research & Development

豊富な経験を有する理学療法士・作業療法士・アスレティックトレーナーがコアメンバーとして在籍。

健康・スポーツ医科学の研究及び実践の拠点

PURPOSE

熊本保健科学大学に在籍する学生の教育的支援を充実させることで、健康を自ら管理できるメディカルスタッフを養成する環境づくりに取り組みます。

健康・スポーツに関する教育及び研究活動の充実と向上を目指すとともに、健康・スポーツ医科学の研究及び実践の拠点として積極的に取り組みます。

チャレンジ 01　球磨郡水上村のスポーツによる地方創生

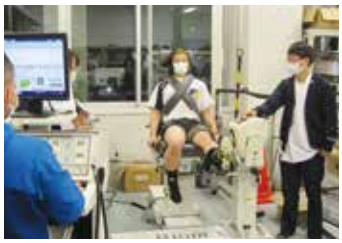
スポーツ合宿の誘致

- 地方公共団体、スポーツ団体、民間企業等が一体となってスポーツをキーワードにした地方創生に取り組みます。
- 地域の気候・環境を利用した積極的な誘致を行います。
- スポーツ医科学を融合させ、スポーツ合宿の機能を最大化することを目指します。

チャレンジ 02　くまもとワールドアスリート

パリ五輪を目指して

- 競技団体から推薦されたオリンピックや世界選手権等で活躍が期待される次世代の育成選手をサポートします。
- 競技力の向上と持続的なトップアスリートの排出に結びつけ、熊本県のスポーツ振興と県民幸福度を高めることに貢献します。
- 計測→データ処理→フィードバックを行う事で、自らの身体機能や心理状態を知ることができる機会を提供します。



熊本県のお家芸であるバドミントン、ハンドボールやサッカー、バスケットチームなどの医科学サポートを予定しています。さらに、熊本県教育委員会や熊本市教育委員会と連携し、次世代アスリート・健康寿命延伸のために貢献できる人材の育成に積極的に取り組みます。

GINKYO 特集2 SPECIAL FEATURE

学生３団体リーダー座談会

伝えたい 支え合う心

本学には、学生生活全般において学生同士が協力し支え合う2つの団体があります。学友会とピアサポーターです。また、アカデミックスキル支援センターでは、「学生指導員」の肩書を持つ学生たちが、「共に学ぶ経験者」として後輩たちの学修支援にあたります。今回、3団体のリーダーの皆さんに初めて集まってもらい、それぞれの活動紹介や今後の目標を語ってもらいました。

坂田　本日は、アカデミックスキル支援センター学生指導員、学友会、ピアサポーター、それぞれのリーダーの皆さんにお越しいただきました。まずは、実際にどんな活動をしているのかお聞かせください。

中山　私たちが1年生の頃は「アカデミックスキルラボ」だったんですけど、昨年4月に「アカデミックスキル支援センター」に昇格しました。主にやってる活動は、アクティブ・ラーニング的な「アカデミックスキルI～Ⅲ」（1～2年前期、全学必修科目）の中で、受講学生さんが書いたり、ディスカッションしたりする際のサポートです。このほか、科目に関係なくレポート指導だったり、論文の読み方だったりなどが、私たちのやっていることです。また、アカデミックスキルの授業では「リーダー学生」という制度があります。私も1年生の頃リーダー学生になって、ラボの先輩や先生方から直接、指導を受けて、それを授業の中で仲間の学生さんに還元する、という役割をしていました。そこから査定レポートを書いて学生指導員に合格し、今は「上級指導員」という立場でやらせてもらっています。

松山　学友会は仕事の幅が広く、今7つの部署に分かれていてさまざまな企画を行っています。たとえば、今廊下に出ている七夕飾りのように、総務部はシーズンプロジェクトとして季節に合った催しなどをしています。献血活動も学友会が中心となっていて、献血部とその運営部で担当し、1年生にも積極的に参加してもらっています。あとは球技大会ですね。コロナ禍でなくなっている部分はあるんですけど、できる範囲でという感じ。今一番やっているのは杏祭の準備ですね。（コロナ禍のため）昨年、一昨年とできなくて、3年ぶりに開催しようっていうところで準備をしてるんです。ただ、文化祭を経験したのは4年生しかいない。そこで、今年は規模は小さくても形として成功できれば、来年以降大きくできるかなと思って準備しています。

古木　オープンキャンパスの際、本学に来られた高校生の皆さんや保護者の方に対して相談会をしています。入試のこと、大学生活のことなど何でも聞けるような場所をキャンパステラスなどにつくって、大学にいる私たちから伝えられることを質問に答えるという形でやっています。また、新入生が初めて学校に来る時なんか、健康診断など（行事が）詰め詰めなので、私たちが運営を手伝ったり、大学施設を案内したりしています。テストや履修登録のことについても、昼休み時間を利用してキャンパステラスで相談会を開き、1年生や2年生に教えるということもやっています。

坂田　それぞれの活動の魅力は？　あるいは、皆さんなりのやりがいを教えてください。

中山　大学と高校の違いというか、それが社会にどう関わっていくかっていうことを伝えるところが一番難しくて。だいたい大学を卒業してからとか、卒業間近な時、就活を始めた時にやっと分かるようなことを1年生からこの大学はやっているんですよっていうところが、ある意味、うちの大学の強みではないでしょうか。そういうところを（1年生に）伝えたいとは思ってます。私たちが一番関わっているリーダー学生の子たちをサポートしていて、「伝わったな」と思ったときの感覚がやりがいかな。（相手が）分かってくれるということは、自分の力にもなります。

古木　最初、相談に来られる人は皆さん不安な感じです。言いたいことはあるんですけど、それを言えない人とかが多くて。それで、こっちが「こんなこと悩んでない？」とか、「一人暮らしはどう？」といったふうに語り掛けて、話を引き出しています。相手がうまく話してくれて、悩みが解決されたような顔をされたときに、すごいやりがいを感じてます。

松山　（学友会会長という仕事は）現場にいろいろ足を運んでやるっていう一般会員の活動と比べると、学務課さんや外部

出席者

アカデミックスキル支援センター
上級学生指導員
中山 慶亮さん
医学検査学科3年

学友会代表、学友会会長
松山 直央さん
リハビリテーション学科
理学療法学専攻3年

ピアサポーター代表
古木 ほたるさん
リハビリテーション学科
理学療法学専攻3年

ファシリテーター
アカデミックスキル支援センター
外部指導員
坂田 圭士郎さん
大学院 リハビリテーション領域 2年

の方とかと連絡を取って活動の環境を整えてあげるのが仕事なんで、「やりがい」といっても直接感じにくい。（コロナ禍による遠隔授業により）自分が1年生の時は本当にクラスメイトの名前すら覚える機会がないという状況でした。それが、最近は杏祭の準備とかやっていたら、学科や学年を越えてみんな仲がいい。そんな光景を見ると、なんか自分が準備してきたことが実になってるなって思います。目に見えて感じる「やりがい」もそこかな。

坂田　活動していく中で大変なことってどんなことでしょう。

中山　現在、学生指導員は3年生2人と、2年生2人で、これに外部の職員さん3人と先生方が加わって活動しています。「アカデミックスキル」は全学科授業があるので、1学年360人くらいの学生さんをサポートしていかなければなりません。2年生だった昨年は、先輩たちや職員さんたちに頼ってきたんですけど、3年生になり下の指導員が入ってきた当初は私自身の活動だけで忙しくて、後輩指導員を指導する暇がない。「なんとなくやりながら覚えてね」っていう感じでした。これでは良くないということで、今はコミュニケーションをとりながら、サポートのレベルをどうしようかと模索中です。アカデミックスキル支援センターには、（経験を積んだ）教職員さんたちがいるので、結構頼ったりしているのが現状なんですけど、ゆくゆくは学友会さんやピアサポの皆さんみたいに、学生だけでやっていけるような感じになったらいいなと思います。

松山　引継ぎが一番大変ですね。例えば、杏祭だったら引継ぎだけの部署を今年から作って、会議議事録を全部とってもらっています。担当する3人は全員が言語聴覚学専攻の1年生です。できるだけ1年生にそういうことを覚えておいてもらおうと思ってのことです。あと、作業カレンダーを作って、実際にやった作業内容をみんなに書き込んでもらっています。何日にどんな作業をしたといった具合に。すべての作業（の流れ）を書いたものがあると、来年以降はそれをベースに進行できますし、楽になるんじゃないかと思ってます。学友会会員は190数人いますが、みんなすごいいい子ばっかりで、活動もすごくスムーズに動きます。会員間の熱量の差とかもあんまりなくて、みんな水平に仕事量も偏らずにやってくれているので比較的助かってます。

古木　私たちが大学に入った時から、コロナだったので、大部分の授業やテストが遠隔で行われました。ですから、今の1年生とかに「授業はどんな感じですか」とか「テストはどうでしたか」って聞かれても、はっきり答えられないのがすごい悩みでした。それでも、3年生になると「この科目はこうしておけばよかった」といった思いはあります。そういった反省みたいなものを交えて伝えるようにしています。また、「あの授業がすごい大事だった」とか、感じることもあるので、それも伝えるようにしています。

坂田　今後の目標は?

松山　僕は、知識やスキルを身につけるような活動をすることが苦痛ではないタイプです。逆に言うと、学友会の会長という立場があるからこそ、今勉強も頑張れているのかなっても思います。今年の目標は、会長就任時に「新しい活動を増やしていく」って言ったので、まずは杏祭を成功させます。1、2年生も積極的に動いてくれているので、これからは後釜も探しながら、引継ぎも頑張っていきたいですね。

古木　実習とかテストの勉強とか、3年生で結構大変なんですけど、できるだけ参加して、後輩に自分の姿を見てもらうっていう感じでやってます。見て、学んでいって、そこを引き継いでいってほしいなって思ってます。私も2年余りでいろんなことを経験してきたので、それをこれからの相談会とかで少しでも伝えて、相談者がいい形で帰っていけるようになるのがいいな、と思ってます。

中山　今年、私たち学生指導員のなかで目標にしてるのは「主体性」です。自ら学ぶ姿勢を、少しでも1年生に身につけてもらいたいなという思いからです。いろんな形で伝えていきたいなって思います。アカデミックスキル支援センターは、たぶん学友会やピアサポと比べると、まだ学生にとって遠い存在なのか、利用しづらいというか、授業のこと以外で来にくい面があるので、そこは2つの団体を見習って、ちょっとでも利用者が増えるようにしていきたいなっていうところはあります。

坂田　ありがとうございました。

News & Topics

卒業式、修了式
巣立ちの春 希望胸に380人

2021（令和3）年度の卒業式、修了式が3月11日（金）、学科ごとに時間をずらして開かれました。医学検査学科の卒業式と認定看護師教育課程 脳卒中看護分野の修了式では、竹屋元裕学長が卒業生、修了生のそれぞれの代表に学位記、修了証書を授与した後、「医療現場では生涯にわたり自己研鑽に努め、最新の知識・技術を身につけることが大切です。熊本保健科学大学を卒業したという誇りをもって、大きく社会に羽ばたいてほしい」と式辞。在学生の送辞に続き、学科の卒業生を代表して久多見健太さん＝写真下左＝が「先生方の熱心な指導のおかげで、医療人として必要な知識や技術を学び、人間力も養うことができました。大学生活で培ったものを忘れず、広く社会に貢献していきたいと思います」と答辞を述べました。

看護学科と助産別科の卒業式・修了式では看護学科の中島結衣さん＝同中央、リハビリテーション学科と大学院 保健科学研究科の卒業式・修了式では、福島史朗さん（理学療法学専攻）＝同右＝がそれぞれ答辞を述べました。

希望胸に大学生活スタート
学部生、院生ら419人 入学祝う

2022（令和4）年度の入学式が4月2日（土）、本学アリーナで行われ、学部生378人、大学院保健科学研究科13人、助産別科20人、キャリア教育研修センター8人の計419人が本学での生活をスタートさせました。

新型コロナウイルス感染防止のため、式典は昨年度に続き3回に分けて開催。9時半から医学検査学科とキャリア教育研修センター 認定看護師教育課程 脳卒中看護分野、11時半から看護学科と助産別科、14時半からリハビリテーション学科と大学院保健科学研究科の入学式がそれぞれ行われました。

このうち、医学検査学科の入学式では、入学許可が宣言された後、竹屋元裕学長が「大学とは『人生の設計図』を描く場所。それぞれの個性を生かしつつ、皆さん独自の『大きな設計図』を描くことをお願いします」と式辞。新入生を代表して桑野花菜さんが、「熊本保健科学大学の学生として誇りを持ち、実りある学生生活を送ることを、ここに誓います」と、宣誓しました。なお、看護学科の入学式では中村有伽さん、リハビリテーション学科の式典では菅 穂乃花さん（生活機能療法学専攻）が宣誓しました。

退職者11人を送る　「退職者送別の会」

「退職者送別の会」が3月24日（木）、50周年記念館で開催されました。竹屋元裕学長が定年等で退職する教職員11人を紹介。出席した5人の退職予定者のうち4人が登壇し、惜別の言葉を語りました。山元総勝教授（学長特別補佐＝国際担当、リハ学科理学療法学専攻）は、リハ学科開学を前に沖縄リハ学院から本学リハ学科準備室に入職したいきさつを振り返りました。また四綱領についても触れ、「臨床実習を通して『思慮』『仁愛』の心を育ませることが大切だ」と説きました。森山雄三助教（看護学科）、岩村健司講師（リハ学科言語聴覚学専攻）、杉本智波専任教員・講師（キャリア教育研修センター 認定看護師教育課程 脳卒中看護）もお別れの挨拶をしました。今年は、Zoomで中継されました。

退職者送別の会であいさつする山元総勝教授

医療現場での業務拡大に備える

日本臨床衛生検査技師会 法改正受け講習会

医師の働き方改革の一環として、医師以外の関係職種で可能な限り業務分担を行えるように法律が改正され、臨床検査技師の業務が拡大しました。それに伴う日本臨床衛生検査技師会の厚生労働大臣指定講習会が4月24日(日)、本学で開催されました。

同日は、事前にWeb研修システムによる基礎講習を終えた60名が、静脈路確保、造影剤の注入、CGM(持続血糖測定)、採痰、直腸肛門機能検査、内視鏡および生検等の医行為について実技を中心に学びました。講師には、医師だけでなく、本学看護学科の先生にも協力いただき、非常に有意義な講習会となりました。

日本臨床衛生検査技師会は、今後5年かけて計6万人の講習会修了を想定しており、本学でも年に数回、講習会を開催する予定です。また、現1年生の新カリキュラムでは講習会内容が教育課程に含まれており、学内実習も実施されます。

(医学検査学科・野中喜久)

講習会で、喀痰採取の実技に取り組む参加者たち

﨑元顧問に熊日出版文化賞 『熊本橋紀行』 歩いて楽しむ134本

﨑元達郎顧問(前理事長)が著した『熊本橋紀行』(熊本日日新聞社)が、第43回熊日出版文化賞に決まりました。県内に架かる橋の中から134本を選び、豊富な写真や地図、データで紹介。審査員からは「歩きながら楽しめる編集」との評価を得ました。

熊日出版文化賞は、県内の個人・団体による優れた著作を毎年顕彰しています。今回は、2021年に刊行された約110点が対象となりました。

『熊本橋紀行』は、橋梁構造工学が専門の﨑元顧問と共著者の福島通安さんが、江戸期から現代に至る県内の代表的な橋を紹介しています。県内を7つの流域・地域に分け、橋ごとに簡潔な読み物風のコメントもつけられていて、ガイドブックとしても役立ちそうです。

熊本日日新聞の取材に対し、﨑元顧問は「評価していただけてとてもうれしい。実際に足を運ぶことで、まずは橋に慣れ親しんでもらいたい。橋に代表される社会インフラの重要性も読者に伝えることができればと思う」とのコメントを寄せていました。

令和4年度 後援会役員紹介

会　長	(1名)	栗原　大治
副会長	(2名)	小倉　真奈美
		西村　良子
理　事	(11名)	糸山　いづみ
		岩本　博
		浦上　香織
		緒方　乃里江
		川島　美恵子
		黒澤　禎治
		庄崎　由香里
		東　洋薫
		船越　政弘
		山本　成美
		吉岡　瑞宗
監　事	(3名)	池島　香織
		神永　しのぶ
		牧野　真由美
会　計	(1名)	本多　愛華

※ 副会長に就任いただく予定だった方一名が事情により退任されたため、令和4年度副会長は二名体制で臨んでまいります。※各役職とも、五十音順に掲載

充実、久しぶりの対面開催 熊本県医学検査学会

第54回熊本県医学検査学会が6月26日(日)、熊本市の熊本城ホールで開催されました。この学会は毎年1回、熊本県下の臨床検査技師を対象に開かれていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、過去2回の大会は、web配信での開催となっていました。今回3年ぶりに対面での発表ができました。

(医学検査学科・松本珠美)

※第54回学会長

第54回熊本県医学検査学会の実行委メンバーたち

【国家試験結果】令和3年度卒業者(新卒)の状況

※合格率の( )表示は全国平均

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	昨年の合格率(%)
第106回 保健師	20	20	100.0(91.5)	100.0
第111回 看護師	110	110	100.0(91.3)	99.1
第105回 助産師	19	19	100.0(99.4)	100.0
第68回 臨床検査技師	111	95	85.6(75.4)	93.0
第57回 理学療法士	47	40	85.1(79.6)	88.1
第57回 作業療法士	39	38	97.4(80.5)	94.9
第24回 言語聴覚士	40	37	92.5(75.0)	92.3

熊本セントラル病院との連携協定の締結について

学生の実習や就職に関することなどを柱とした連携協定が2月10日(木)付で、本学と社会医療法人潤心会 熊本セントラル病院との間で結ばれました。新型コロナウイルスの影響も考慮し、書面のみでの協定となりました。これにより、本学は学生教育や研究の場を得、同病院は本学が有する医療系の専門知識や技術を生かすことができるようになりました。

本学はこれまで済生会熊本病院、熊本機能病院、くまもと南部広域病院、福田病院、朝日野総合病院との間で連携協定を結んでおり、今回で6施設目となります。

熊保大生の今を紹介します

世界に羽ばたけ! 未来の巨匠 Vol.3

※7月14日（木）にインタビューさせて頂きました

松尾　健志郎さん
大学院 リハビリテーション領域 1年

理学療法士として、指導者として より良い未来に貢献していきたい

「おばあちゃんの肩もみ」が原点

私は長崎県島原市出身です。高校3年の頃、進路に悩んでいて、家族や先生から紹介されたのが熊本保健科学大学でした。医療や福祉に特別興味があったわけではなく迷っていたところ、ふと小さい頃のことを思い出しました。おばあちゃんの肩をもんで「ありがとう」と言ってもらい嬉しかった記憶です。体と心が触れ合うことで、お互いに心がほぐれることの喜びを子どもながらに感じていました。それを思い出した途端、熊本保健科学大学で学ぶ自分をイメージでき、リハビリテーション学科理学療法学専攻を志望しました。

知識、技術、人間力も成長させられる環境

熊保大で学ぶ中で強く感じたのは、自身を成長させられる環境に恵まれているということです。例えば、「スモールグループ担任制度」。これは学生5～8名に対して教員1～2名で1グループを構成する制度です。少人数のおかげで学生は勉強や学校生活、進路など何でも気軽に先生に相談することができます。

また、「アカデミックスキル支援センター」も大きな存在です。これは学生指導員が受講学生に対して「読む・聞く・書く・話す・考える力」の育成をサポートする場で、私は大学2年時から受講生のリーダーとなり、現在は学生指導員として活動しています。指導するという経験はもちろんのこと、指導内容・計画を考えることも自己成長につながり、一人の人間として成長できたと思います。ぜひ多くの学生にアカデミックスキル支援センターを利用してほしいですね。

広い世界を見るために進学を決意!

大学卒業後に、理学療法士の資格を取得することができました。卒業して就職する道も考えましたが、病院での長期実習の際に、ある先生から「若い内にいろいろな経験をしてから病院に戻って来る道もこれからの重要な選択肢の一つ」とアドバイスをいただき、大学院にチャレンジしたいと思うようになりました。大学側が「応援するよ」と背中を押してくれたのもありがたかったですね。大学院ではリハビリと食事を組み合わせた介護の仕方を研究したいと考えています。目指すは、リハビリを必要とする人への対処よりも、リハビリしなくてよい人たちを増やしていく未来。そして、一指導者として、次世代の医療人の育成にも関わっていきたいと考えています。より良い未来に向けて、研究と教育の両面で貢献していきます。

あなたのモットーは?

「百聞は一見に如かず」

情報化社会であり、いろいろな人の意見にも触れやすい現代。
だからこそ、自分で見て、経験し、考えることを大切にしています。

研究のほかにも、学会発表や後輩の指導に精を出す松尾さん。さらなる活躍に期待しています！

新任教職員紹介

ようこそ、熊本保健科学大学へ

理事長特別補佐

安高 純一郎

本年4月より理事長特別補佐に着任致しました。リコー、総合商社丸紅、ソフトバンク、アクセンチュアを経て2007年に来熊し平田機工で上場企業の経営に携わり東証一部の目標を達成し昨年6月末に卒業しました。本学で将来を託す人材育成とこれを支える経営基盤の充実に寄与して参る所存です。

特命副学長

古閑 陽一

この度、特命副学長として6月より勤務することになりました。これまで、熊本県で健康福祉部長、教育長等として勤めてきた経験やネットワークを活かし、社会に貢献できる医療技術者の養成やリーディング大学の実現に向けて、皆様と一緒になって取り組んで参りますので、何卒宜しくお願いいたします。

医学検査学科

教授
青木　学

8年振りにアメリカ国立衛生研究所より戻って参りました。以前にも増して勢いを感じられる大学の新しい環境で、これまでとは違ったフェーズで教育、研究に取り組んで参ります。更なる飛躍を目指しベストを尽くします。皆様、宜しくお願い致します。

医学検査学科

教務嘱託
松本 恵美子

国立病院機構病院で検査部運営と認定血液・骨髄検査技師として血液や輸血、日本糖尿病療養指導士として糖尿病・NSTに主に携わってきました。臨床の現場経験を活かし貢献できればと思っています。自己研鑽にも努めて参りますので、これからよろしくお願いします。

医学検査学科

教務嘱託
中村 美穂

6月より医学検査科に教務嘱託職員として勤務しております中村です。私は、銀杏学園短期大学13期卒業生で、39年ぶりの大学です。不慣れな事があるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

看護学科

准教授
川口 弥恵子

4月から看護学科母性看護学領域に着任いたしました。看護のみならず、広い視野を持ち、自分で考えることのできる学生さんを育成したいと考えております。熊本は初めてですが、とてもいいところで気に入っています。どうぞよろしくお願いいたします。

看護学科

准教授
久松 美佐子

精神看護学領域に着任致しました。鹿児島の地で臨床と教育を行ってきましたが、伝統ある本学で看護教育に携われることを大変嬉しく思います。対象に関心を寄せケアを提供できる看護者の育成に尽力していきたいと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。

看護学科

講師
江上 史子

老年看護学領域に着任いたしました。私は精神科看護の場における認知症高齢者の看護や在宅療養の場での高齢者と家族の支援に関心があります。老年期を生きる方が自分らしく尊厳ある人生を送るための支援について、学生の皆さんと一緒に考え、学んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

看護学科

講師
吉野 拓未

4月より基礎看護学領域に着任いたしました。私は以前に本学で実習助手を経験しており、再びこの環境で教育に携われることを嬉しく思います。実習や演習を通して、学生と共に成長していけるよう努力していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

リハビリテーション学科
理学療法学専攻

講師
枝尾 久美

理学療法学専攻および健康・スポーツ研究センターに着任しました。整形外科での勤務を経て、スポーツチーム等でアスレティックトレーナーとして活動しておりました。臨床力のある理学療法士の育成に努めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

リハビリテーション学科
理学療法学専攻

講師
田中 貴士

理学療法学専攻の田中貴士と申します。私は実験動物を用いて、脳損傷後の回復を促す運動量の探索や遺伝子解析をしています。皆さまのお力添えを頂きながら、近年中にヒトの臨床研究につなげ、本学並びに熊本・日本の健康長寿社会の実現に貢献して参ります。

リハビリテーション学科
理学療法学専攻

講師
本田 啓太

2022年3月に着任しました。前職の東北大学病院では、運動器や神経系領域の診療や研究に従事していました。歩行やスポーツ関連動作の質の高い評価が、研究室だけでなく臨床現場でも当たり前に行われる世界を目指して、研究と教育（学部・大学院）に努めます。

リハビリテーション学科
理学療法学専攻

講師
久保下 亮

私の専門は、小児理学療法および障がい者スポーツ分野です。東京2020パラリンピックでは、車いすテニス競技会場のトレーナーブースの責任者を行いました。今後も大学教育と研究に励み、学生や子ども達・アスリートのお役に立てるよう努力してまいります。

リハビリテーション学科
理学療法学専攻

講師
山本 良平

理学療法学専攻に着任いたしました山本です。これまで運動の学習について研究をしてきました。研究だけでなく授業や実習等の場面で、学生の皆さんに1つでも多くの「できた」という経験をしてもらえるよう精一杯サポートいたします。よろしくお願いします。

キャリア教育
研修センター

認定看護師教育課程
特定行為研修課程
専任教員・助教
内村香代子

私は前年度まで認知症看護認定看護師として北九州市の病院に勤務し、認知症の人が安心して急性期病院で治療を受けられるよう取り組みを行ってきました。今年度は認定看護師教育課程「新米」教員として、研修生とともに成長できるようがんばります!

保健室

技能嘱託
荒木 美妃

保健室にて勤務しております。本学は母校であり、思い出がたくさん詰まった場所です。そのような場所で働けることができ大変うれしく思います。学生たちが楽しく健やかに大学生活が送れるようサポートしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

学校法人銀杏学園理事・幹事・評議員一覧

（2022年8月1日現在）

理事長	木下　統晴	銀杏学園理事長
理事	竹屋　元裕	熊本保健科学大学学長
	福田　稠	熊本県医師会会長
	楢原　真二	熊本保健科学大学副学長
	渡辺　雄一	熊本保健科学大学学部長
	桝田　浩	一般財団法人 化学及血清療法研究所 副理事長
	副島　秀久	社会福祉法人恩賜財団済生会 熊本県済生会支部長
	高橋　毅	国立病院機構 熊本医療センター院長
	猪股 裕紀洋	熊本労災病院院長
	永里　敏秋	KMバイオロジクス株式会社 代表取締役社長
	木下　統晴	一般財団法人 化学及血清療法研究所 理事長
監事	林田　喜一	税理士
	足達　聡	BR LINKS 代表

顧問	﨑元　達郎	前銀杏学園理事長
評議員	竹屋　元裕	熊本保健科学大学学長
	楢原　真二	熊本保健科学大学副学長
	渡辺　雄一	熊本保健科学大学学部長
	河瀬　晴夫	熊本保健科学大学事務局長
	瀧口　巌	同窓会連合会会長
	原田　精一	医学検査学科同窓会会長
	中野　博之	看護学科同窓会会長
	池田　夕希	助産別科同窓会会長
	笹本　陵太	リハ学科同窓会会長
	福田　稠	熊本県医師会会長
	園田　寛	熊本市医師会会長
	福吉　葉子	熊本県臨床検査技師会副会長

評議員	本　尚美	熊本県看護協会会長
	坂崎　浩一	熊本県理学療法士協会会長
	内田　正剛	熊本県作業療法士会会長
	池田　健吾	熊本県言語聴覚士会副会長
	馬場　秀夫	熊本大学病院院長
	平田　稔彦	熊本赤十字病院院長
	米満 弘一郎	医療法人社団寿量会 熊本機能病院 理事長
	毛利　浩一	株式会社フードパル熊本 代表取締役
	内田　昭治	西里校区自治協議会相談役
	馬場　啓	銀杏学園顧問弁護士
	桝田　浩	一般財団法人 化学及血清療法研究所 副理事長
	藤井　隆	一般財団法人 化学及血清療法研究所 前副理事長

研究室紹介
Laboratory Report

研究テーマ

- プリズム順応療法の効果に関連する研究
- 半側空間無視患者の音源定位に関連する研究

保健科学研究科 保健科学専攻
松尾 崇史

私は半側空間無視に対するリハビリテーション、特に音源定位やプリズム順応を用いた臨床研究を中心に実施しております。プリズム順応は非常に簡便な課題で臨床でも用いやすいもので、その効果については一定の見解が得られています。しかし、その適応や有効な実施方法など、まだまだ不明な点も多く現在はそれらを明らかにするための実験的研究や臨床研究を進めております。臨床時代から研究活動を開始し約15年が経ちました。今は同じ志を持った院生が集まり、飛躍的に研究を進めることができ嬉しく思っています。近年では研究フィールドを広げ、地域在住高齢者の社会的孤立・孤独の一次予防に関連する研究活動も開始しております。

二足の草鞋で地域社会に貢献

修士課程2年
鉾之原将希 さん

どんな研究を…

Virtual Realityを用いたプリズム順応の方法論について研究を進めております.将来的には臨床研究に発展させることが出来たらと考えてます。

なぜ大学院に?

臨床と研究、二足の草鞋でリハビリテーションの発展や地域社会に貢献できる作業療法士になりたいと思い進学しました。

臨床現場での疑問を明らかに

修士課程1年
吉瀬　陽 さん

どんな研究を…

脳卒中後の患者様を想定し、空間認知能力に対するVRを用いたリハビリテーション介入について研究を開始しています。

研究の面白いところ

臨床現場で疑問に感じたことなどを適切な研究プロセスを得て明らかにする、この一連の流れそのものが面白いと感じます。

研究への意欲を高め合える

修士課程1年
河口向日葵 さん

どんな研究を…

私は視覚や固有覚など他の感覚様式に変化を与えた際に音源定位が変化するのか否か、その関係性について研究しています。

どんな研究室ですか?

先生やゼミの仲間とも意見交換しやすく、研究への意欲が高め合える雰囲気があるのが非常に良いところだと思います。

令和4年度 入試結果

学科	入試区分			募集人員	志願者	区分	合格者	入学者	志願倍率	実質倍率
医学検査学科	総合型選抜	エントリー		5	18		15			
		出願 ※1			14	タイプA	5	5	2.8	2.8
					(13)	タイプB	4	4	—	—
	学校推薦型選抜（指定校）			15	16		16	16	—	—
	学校推薦型選抜（公募）			30	33		30	30	1.1	1.1
	一般選抜			40	141		108	55	3.5	1.3
	共通テスト利用（前期）			5	103		77	10	20.6	1.3
	共通テスト利用（後期）			5	1		1	0	0.2	1.0
	学科合計			100	308		241	120	3.1	1.3
看護学科	総合型選抜	エントリー		5	19		15			
		出願 ※1			15	タイプA	5	5	3.0	3.0
					(15)	タイプB	2	2	—	—
	学校推薦型選抜（指定校）			15	14		14	14	—	—
	学校推薦型選抜（公募）			30	60		36	36	2.0	1.7
	一般選抜			40	209		118	50	5.2	1.8
	共通テスト利用（前期）			5	106		61	10	21.2	1.7
	共通テスト利用（後期）			5	8		5	3	1.6	1.6
	学科合計			100	412		241	120	4.1	1.7
リハビリテーション学科	理学療法学専攻	総合型選抜	エントリー	3	10		9			
			出願 ※1		9	タイプA	4	4	3.0	2.3
					(9)	タイプB	2	2	—	—
		学校推薦型選抜（指定校）		8	7		7	7	—	—
		学校推薦型選抜（公募）		18	36		20	20	2.0	1.8
		一般選抜		24	85		54	35	3.5	1.6
		共通テスト利用（前期）		4	61		21	2	15.3	2.9
		共通テスト利用（後期）		3	0		0	0	—	—
		社会人		若干名	0		0	0	—	—
		専攻合計		60	198		108	70	3.3	1.8
	生活機能療法学専攻	総合型選抜	エントリー	3	9		9			
			出願 ※1		9	タイプA	3	3	3.0	3.0
					(8)	タイプB	3	3	—	—
		学校推薦型選抜（指定校）		5	4		4	4	—	—
		学校推薦型選抜（公募）		12	15		15	15	1.3	1.0
		一般選抜		15	29		20	12	1.9	1.5
		共通テスト利用（前期）		3	47		35	6	15.7	1.3
		共通テスト利用（後期）		2	0		0	0	—	—
		社会人		若干名	0		0	0	—	—
		専攻合計		40	104		80	43	2.6	1.3
	言語聴覚学専攻	総合型選抜	エントリー	3	4		4			
			出願 ※1		4	タイプA	3	3	1.3	1.3
					(4)	タイプB	0	0	—	—
		学校推薦型選抜（指定校）		5	3		3	3	—	—
		学校推薦型選抜（公募）		12	11		11	11	0.9	1.0
		一般選抜		15	14		9	6	0.9	1.6
		共通テスト利用（前期）		3	24		24	2	8.0	1.0
		共通テスト利用（後期）		2	0		0	0	—	—
		社会人		若干名	0		0	0	—	—
		専攻合計		40	56		50	25	1.4	1.1
	学科合計			140	358		238	138	2.6	1.5
保健科学部合計				340	1,078		720	378	3.2	1.5

※専攻合計・学科合計・保健科学部合計の人数に総合型選抜のエントリー者数は含まれません。
※1（　）内の数はタイプB（奨学金なし）希望者の人数です。

令和4年度 学生在籍者数

5月1日現在

	保健科学部							助産別科	大学院保健科学研究科	キャリア教育研修センター			大学合計
	医学検査学科	看護学科	リハビリテーション学科				学部合計			特定行為研修課程	認定看護師教育課程（脳卒中看護分野）	認定看護師教育課程（認知症看護分野）	
			理学療法学専攻	生活機能療法学専攻	言語聴覚学専攻	学科合計							
1年	123	120	70	43	25	138	381	20	13	0	8	0	422
2年	114	107	42	40	43	125	346		7				353
3年	110	111	46	50	45	141	362						362
4年	108	121	42	39	46	127	356						356
計	455	459	200	172	159	531	1,445	20	20	0	8	0	1,493

ふれあいSALON

学友会役員紹介　令和4(2022)年度　学友会会長

リハビリテーション学科
理学療法学専攻3年
松山 直央さん

本年度学友会会長を務めさせていただくリハビリテーション学科理学療法学専攻3年の松山直央です。副会長の齊藤稜平(理学療法学専攻3年)、船越海斗(理学療法学専攻2年)、他の学友会運営部役員と共に先生方をはじめ、事務局の皆様や4年生相談役員の先輩方の力をお借りして1年間頑張っていきます。

今年度は新型コロナウイルスの影響により自粛されてきた活動を少しずつ再始動していきます。学友会の1番の目標は3年ぶりとなる杏祭(学園祭)の開催です。杏祭成功のカギは団結力であり、西里駅清掃や交通安全指導、その他様々な活動を通して仲を深めて信頼できる仲間づくりを行っていきたいです。分からないことも多いですが、過去にとらわれすぎないよう新しいチャレンジを積極的に行っていきたいです。

本学のより良いものになるよう学友会運営部役員一同努めてまいります。1年間どうぞよろしくお願いします。

クラブ・サークル活動

子どもの言語臨床研究会

花園小学校 学校支援ボランティア

リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻3年
糸山千尋さん

私たちは、サークルを通して花園小学校へボランティア活動に行っています。2021年3月に花園小学校のボランティアのお話をいただいていたものの、当時COVID-19の影響でサークル活動が禁止されていたため、すぐに開始することができませんでした。しかし、感染が落ち着いた2021年11月~12月にかけて計8回、延べ30名が花園小学校でボランティア活動を実施しました。言語聴覚学専攻の2年生を中心に、自分たちの授業がない平日に花園小学校へ伺い、子ども達と一緒に授業を受けたり、休み時間におしゃべりをしたりして楽しく学んでいます。その日の授業内容や目の前にある課題に取り組めるよう、声掛けを行うことで、子ども達・先生方のサポートを行います。子ども達の明るく元気な挨拶や学校の先生方にたくさんお礼を言っていただけることは、ボランティアをして良かったなと心から感じるものです。今年度は、6月から4年生と2年生で活動を再開しています。この活動を引き続き継続して行い、子ども達との関わり方について学び続けたいと思います。

こんにちは、バドミントンクラブです。

医学検査学科 2年　切通和さん

私たちバドミントンクラブは、月に2、3回程度、大学のアリーナを利用して活動を行っています。1回の活動では20~50人位が集まり、新型コロナウイルス感染対策を行いながら楽しく練習をしています。普段は試合練習を行うことが多いです。シングルスやダブルスはもちろん、男女でペアを組んで混合ダブルスをしたりと自由度の高い練習をしています。また、初心者の学生や小中学生ぶりにバドミントンをするという学生も多く所属しているので気兼ねなく参加出来るのが特徴です。ここ数年は新型コロナウイルスの影響で大会が開催されていませんが、本来であれば年1回程度参加しています。皆さんもバドミントンクラブで一緒に汗を流しませんか?お待ちしています!

新入生インタビュー

今年度の新入生に入学しての感想・これからの抱負・楽しみにしている事etc…インタビュー!

医学検査学科

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

初めは、新しい環境やコロナ禍での大学生活に不安がありました。しかし、遠隔だけではなく対面での授業もしっかり組まれていて、友人との交流や学習には助かっています。時間を上手く活用して、サークルやアルバイトと勉強の両立を頑張っていきたいです。

Q2 大学生活でやってみたいことは?

サークルに参加して、学科や学年を問わずに交流を深めることです。社会に出るまえに多様な人と交流して、コミュニケーション能力や価値観の違いを学び、人として成長していきたいです。

桑野 花菜さん

最後にひとこと! 立派な臨床検査技師になれるよう、充実した4年間にしていきたいです。

看護学科

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

私が入学して最初に思ったことはみんな人がいいということです。友達もあまりいない中で少し不安だったけど看護学科1年生みんな気さくで優しくて、出身もそれぞれ異なるはずなのにすぐに仲良くなり、雰囲気がとてもいいです。みんなで助け合いながら充実した学生生活を送ることが出来ています。

Q2 大学生活でやってみたいことは?

これから頑張りたいことはサークル活動です。私はいまバレーとアルティメットの2つのサークルに所属していてどちらも楽しくしています。コロナの状況をみながら試合にも出てみたいなと思っています。

奥山 美優さん

最後にひとこと! よろしくお願い致します!

リハビリテーション学科 理学療法学専攻

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

入学してからは、驚きの連続でした。まず、医療系の大学なので、医学の専門的な本が多く自分の知りたいことを深く知ることが出来ることに驚いています。そして、臨床実習を早い時期から行うことにも驚きました。この実習を通して自分が目指すPT像が鮮明になり毎日の講義への集中力が激変しました!

Q2 大学生活でやってみたいことは?

3つのことをやってみたいです。
1つ目、サークル活動のよさこいに熱中する!
2つ目、色々な種類のバイトをして経験を積む。
そして、骨や筋肉などの、自分の興味があることを極める。

太田 乙羽さん

最後にひとこと! 立派なPTになれるようにたくさん勉強して、楽しんで充実した大学生活を送りたいと思います!

リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

今までの学校生活とは違い、不安もありましたが、友達や先生方、大学の説明をしてくださった先輩方のおかげで、大学生活の雰囲気がわかり、楽しい毎日を送っています。まだまだ慣れないことも多いですが、友達と助け合いながら過ごしています。

Q2 大学生活でやってみたいことは?

ボランティア活動に積極的に参加したいです。地域の方々や、普段あまり関わらない方々とコミュニケーションを取っていくことで、学生のうちから様々な価値観を持っている方々と関わっていき、将来に生かしたいと思っています。

中西 けいさん

最後にひとこと! 大学生にしかできない経験をし、人として成長できる4年間にしたいです!!

リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

先生方のサポートが手厚く、大学での生活が充実していると感じています。実際の臨床でのお話をして下さったり身になる部分が多いです。また、クラスの人との交流が盛んで良い雰囲気が出来ているのも先生方のおかげだと思います。

Q2 大学生活でやってみたいことは?

元々実践的な演習を頑張りたいと思って入学しましたが、勉学に加えて学友会やサークルの活動も両立していきたいです。役員としても文化祭を皆が楽しめるように働きかけたいです。

庄崎 綾華さん

最後にひとこと! 「今、出来ること」「今、やるべきこと」を積み重ねて、これからの医療人としての道筋を歩んでいきます!

助産別科

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

女性の一生を支えたいという同じ志を持つ仲間に出会えて、学びの多い毎日です。実習に向けて放課後にみんなで分娩介助の練習をしています。新しいことばかりで困難もありますが、仲間の存在が力になっています。

Q2 大学生活でやってみたいことは?

助産別科のHealing Herbというサークルで、子育て交流のボランティアに参加しました。実際に子どもと触れ合い、ご家族の子育ての不安や悩みをきいて、より一層母子とその家族に寄り添う助産師にやりがいを感じています。

松田菜々子さん

最後にひとこと! 講義や実習での一つ一つの出会いを大切に、頑張っていきます。

大学院

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

4年間お世話になった場所ですので、過ごしやすいです。また、様々な先生に声をかけていただいたり、卒業研究や学内実習などで後輩とも接することができ、毎日楽しく、充実した生活を送っています。

Q2 大学生活でやってみたいことは?

研究はもちろん、学会発表などを通して、学部では学ぶことができなかった事をしっかり身につけていきたいです。さらに、研究する環境や指導してくれる先生方への感謝の気持ちを忘れず、成長し、恩返しできたらいいなと思います。

荒尾 ほほみさん

最後にひとこと! 何事も笑顔で乗り越えます!

これから共に頑張りましょう!

令和3(2021)年度　著書論文歴

※詳細はホームページに掲載しております(https://www.acoffice.jp/khsuhp/KgApp)
※本学の教員・学生・受入研究員には下線(順位/著者数)

【査読有】

著者・共著者	標題	掲載誌名	発行・発表年
Ciftci H,Anraku K(5/27),DeMirci H(他24名)	Structural insight into host plasma membrane association and assembly of HIV-1 matrix protein	Scientific Repots	2021年
Kawashima K, Anraku K(10/15), Fujita M(他12名)	Development of chimeric receptor activator of nuclear factor-kappa B with glutathione S-transferase in the extracellular domain: Artificial switch in a membrane receptor	Chemical Biology & Drug Design	2021年
Kudo N,Ito T(5/5) (他3名)	ZMYM3 may promote cell proliferation in small cell lung carcinoma.	Acta Histochem Cytochem	2021年
Saito H,Ito T(10/10) (他8名)	The role of YAP1 in small cell lung cancer.	Human Cell	2022年
Abe K(1/7),Kameyama H(3/7),Abe S(7/7) (他4名)	VCAM1-a4b1 integrin interaction mediates interstitial tissue reconstruction in 3-D re-aggregate culture of dissociated prepubertal mouse testicular cells	Scientific Reports	2021年
Yamaguchi R,Yamaguchi Y	Ectodomain Shedding May Play a Pivotal Role in Disease Severity in COVID-19	Journal of Cellular Signaling	2021年
Yamaguchi R,Sakamoto A,Haraguchi M,Narahara S,Sugiuchi H, Yamaguchi Y	The Pivotal Role of Signal Regulatory Protein α in Exacerbating Pulmonary Fibrosis Complicated with Bacterial Infection	Journal of Immune Research	2021年
Yamaguchi R(1/7),Sakamoto A (2/7),Haraguchi M(4/7), Narahara S (5/7),Sugiuchi H(6/7) ,Yamaguchi Y(他1名)	Adaptive Immunity: The Role of Toll-Like Receptors	Austin Journal of Allergy	2021年
Yamaguchi R(1/7),Sakamoto A (2/7),Haraguchi M(4/7), Narahara S (5/7),Sugiuchi H(6/7), Yamaguchi Y(他1名)	IL-23 production in human macrophages is regulated negatively by tumor necrosis factor α-induced protein 3 and positively by specificity protein 1 after stimulation of the toll-like receptor 7/8 signaling pathway	Heliyon	2022年
Usuku H,Matsumoto T(16/22), Matsui H (他19名)	Current Awareness and Status of Venous Ultrasonography in Kumamoto Prefecture —A Report of the Kumamoto CardiovascularEchocardiography Standardization Project —	irculation Reports Circ Rep 2021; 3: 449 – 456	2021年
Hosokawa K,Kawaguchi T(16/19),Nakao S (他16名)	The clinical significance of PNH-phenotype cells accounting for < 0.01% of total granulocytes detected by the Clinical and Laboratory Standards Institute methods in patients with bone marrow failure.	Ann Hematol	2021年
Rajib S.A,Kawaguchi T,Satou Y. (TK and YS contributed equally) (他4名)	A SARS-CoV-2 Delta variant containing mutation in the probe binding regions used for RT-qPCR test in Japan exhibited atypical PCR amplification and might induce false negative result.	J Infect Chemother	2022年
Haresaku S,Yoshida R(3/9),Naito T(他6名)	Effect of multi-professional education on the perceptions and awareness of oral health care among undergraduate nursing students in a nursing school	Journal of Dental Education	2021年
Iwashita Y(1/6),Maeda A(3/6), Sugimoto K (4/6), Yamada S(5/6), Iiyama J(6/6) (他1名)	Are saunas beneficial or harmful for autosomal dominant polycystic kidney disease? Examination with model mouse	The Journal of The Japanese Society of Balneology, Climatology and Physical Medicine	2021年
Uno,I, Kubo,T	Risk Factors for Aspiration Pneumonia among Elderly Patients in a Community-Based Integrated Care Unit: A Retrospective Cohort Study.	Geriatrics	2021年
Maruta M,Miyata H(4/11), Tabira T(他8名)	Association between apathy and satisfaction with meaningful activities in older adults with mild cognitive impairment: A population-based cross-sectional study	IntJ Geriatr Psychiatry 2021	2021年
Okabe T,Miyata H(6/10),Kawagoe M(他7名)	Long-term changes in older adult' s independence levels for performing activities of daily living in care settings: A nine-year follow-up study	International Journal of Environmental Research and Public Health	2021年

著者・共著者	標題	掲載誌名	発行・発表年
Nakamura A,Miyata H(5/12),Tabira T(他9名)	Meaningful activities and psychosomatic functions in Japanese older aduts after driving cessation	International Jounal of Environmental Research and Public Health	2021年
Miyata H(1/14),Tabira T(他12名)	Association between satisfaction with meaningful activities and social frailty in community-dwelling Japanese older adults	Arch Gerontol Geriatr	2022年
Maruta M,Miyata H(6/13),Tabira T(他10人)	Characteristics of meaningful activities in community-dwelling Japanese older adults with pre-frailty and frailty	Arch Gerontol Geriatr	2022年
Kotegawa K,Teramoto W	Association of executive function capacity with gait motor imagery ability and PFC activity: An fNIRS study	Neuroscience Letters	2021年
Abe K,Yamada K(5/20),Taira T(他17名)	Focused Ultrasound Thalamotomy for Refractory Essential Tremor: A Japanese Multicenter Single-Arm Study	Neurosurgery	2021年
Inoue H,Yamada K(3/6),Mukasa A(他3名)	Hemichorea induced by a sphenoid ridge meningioma	Surgical Neurology International	2021年
Kumai Y,Matsubara K(3/6),Orita Y(他3名)	Swallowing dysfunction in myasthenia gravis patients examined with high-resolution manometry.	Auris, nasus, larynx	2021年
Miyamaru S,Kodama N(4/10),Orita Y(他7名)	Optimal Management of the Unilateral Recurrent Laryngeal Nerve Involvement in Patients with Thyroid Cancer	Cancers	2021年
Kodama N(1/4),Tashiro J(他2名)	Effects and Differences of Voice Therapy on Spasmodic Dysphonia and Muscle tension dysphonia: A Retrospective Pilot Study	J Voice	2021年
Miyamoto T,Matsubara K(3/6),Kodama N(4/6),Orita Y(他2名)	Different types of dysphagia alleviated by the chin-down position.	Auris Nasus Larynx	2021年
Kodama N(1/6),Orita Y(他4名)	Factors Affecting the Swallowing Dysfunction Following Oral Cancer Surgery	Ann Rehabil Med	2021年
Morokuma K(1/7),Takahashi M(7/7)(他5名)	Evaluation of the stability of Yamakagashi (<I>Rhabdophis tigrinus</I>) Equine Antivenom after 20 years storage	Tropical Biomedicine	2021年
Hifumi T,Morokuma K(4/7),Takahashi M(6/7),Ato M(他3名)	<I>Rhabdophis tigrinus </I>(Yamakagashi) Bites in Japan Over the Last 50 Years: A Retrospective Survey	Frontiers in Public Health	2022年
野中喜久	ドーパミン神経細胞に入力するグルタミン酸作動性神経終末部上のコリン作動性ニコチン様受容体(nAChR)の機能的役割	熊本保健科学大学研究誌	2022年
登尾 一平,木村 契太,中尾 沙希,松形 僚也,川口 辰哉,上妻 行則	間接抗グロブリン試験におけるdaratumumab の影響を回避する新たな方法のための基礎研究	熊本保健科学大学研究誌	2022年
登尾 一平,田邊 香野,山本 隆敏,南部雅美,楢原 真二,川口 辰哉,上妻 行則	Bernard-Soulier 症候群様疑似検体を用いた血小板凝集能検査実習の試み	臨床検査学教育	2022年
永田和美,亀山広喜,上妻行則,正代清光,登尾一平,立石多貴子,飯伏義弘,古閑公治,南部雅美	熊本保健科学大学のプレ OSCE への取り組みについて	臨床検査学教育	2022年
福永貴之,行平崇,小牧龍二,田中哲子,上村太亮,亀山広喜,申敏哲	舌への触・圧覚,痛覚刺激がValproic acid曝露発達障害モデルラットの記憶力と学習能力に及ぼす影響.	熊本保健科学大学研究誌	2022年
角マリ子,多久島寛孝	特別養護老人ホームが運営する認知症カフェの現状とその課題 4か所の認知症カフェの取り組みから	熊本保健科学大学研究誌	2022年
甲斐村美智子,福本久美子	幼児の睡眠習慣に影響する母親の養育行動および関連要因	日本健康教育学会誌	2021年
高島利,戸渡洋子	認知症と診断された患者の家族介護者のヘルスリテラシー	熊本保健科学大学研究誌	2022年
大釜恵,森みずえ,渡部節子	看護師の採血および静脈注射時の手袋着用率向上のための教育介入効果の検討	日本健康医学会誌	2021年
森山雄三,大澤早苗,堀 律子	重症心身障がい児の家族に対する在宅ケアへの移行支援	日本看護学会論文集ヘルスプロモーション・精神看護・在宅看護	2021年
宇野勲,久保高明	地域包括ケア病棟入院患者の入院時 BMI は ADL 能力の予測因子である.	敬心・研究ジャーナル	2021年

令和3(2021)年度　著書論文歴

著者・共著者	標題	掲載誌名	発行・発表年
申敏哲,行平崇,小牧龍二,福永貴之,田中哲子,土井篤,吉村恵	感覚評価を用いたベンゾピレン投与ラットに対するケイヒの効果検討	福岡医誌	2021年
土井篤,園畑素樹,記伊祥雲,橋本哲,中田大揮	線維筋痛症に対する有酸素運動のもつ鎮痛効果検証	日本運動器疼痛学会誌	2022年
與座嘉康	コロナ禍での理学療法教育における遠隔授業の教育実践と課題～呼吸器系理学療法学での取り組み～	熊本保健科学大学研究誌	2022年
寺本渉,小手川耕平	バーチャルリアリティにおける移動と多感覚情報処理	理学療法ジャーナル	2021年
小手川耕平	運動イメージ能力の個人差とリハビリテーション	熊本保健科学大学研究誌	2022年
小手川耕平,寺本渉	歩行運動イメージの加齢変化―実際運動能力の個人差との関連性―	人文科学論叢	2022年
韓侊熙,丸田道雄,高橋弘樹,中村篤,宮田浩紀,松尾崇史,田平隆行	脳卒中患者の心の理論についての研究-認知機能評価の成績と前頭葉損傷有無の観点からの検討-	日本作業療法研究学会雑誌	2021年
井﨑基博	オンラインによるリッカムプログラムの実施で改善を認めた幼児吃音の1例	熊本保健科学大学研究誌	2022年
永友真紀,辻啓嗣,寺岡沙耶,岩村健司	コロナ禍における言語発達臨床教育研究室(通称「ことばの相談室」)の活動-Zoomを用いた臨床活動と卒業研究-	熊本保健科学大学研究誌	2022年
岩村健司,井﨑基博,永友真紀,畑添涼,小薗真知子	「言語発達臨床教育研究室(ことばの臨床相談室)」報告～5年間のあゆみ～	熊本保健科学大学研究誌	2022年
池嵜寛人,東実佳,緒方瑳耶,島長美怜,冨永未来	計量テキスト分析による言語聴覚士国家試験問題の分析	熊本保健科学大学研究誌	2022年
池嵜寛人,畑添涼,兒玉成博,松原慶吾,水本豪	言語聴覚士自己効力感尺度の開発	言語聴覚研究	2022年
兒玉成博,讃岐徹治	音声治療におけるドロップアウトの影響因子	音声言語医学	2021年
編集　宮田恵里,佐藤剛史,村上健 執筆　兒玉成博,谷合信一,中平真矢,中山慧悟,間藤翔悟,宮本真,山口優実	音声治療実践ハンドブック　声をみる		2021年
兒玉成博,湯本英二,宮本卓海,田代丈二	一側喉頭麻痺音声改善術症例に対するVoclal Function Exerciseの効果	音声言語医学	2022年
兒玉成博,鮫島靖浩,松原慶吾,池嵜寛人,讃岐徹治,湯本英二	嚥下機能改善手術後に視覚フィードバックを用いた嚥下訓練が有効であった混合性喉頭麻痺の2例	嚥下医学	2022年
兒玉成博,池嵜寛人,畑添涼	言語聴覚士養成校の臨床実習におけるルーブリック評価の信頼性と妥当性の検討	熊本保健科学大学研究誌	2022年
池尻幸司,橋本幸成,水本豪,宇野彰	仮名非語の音読において語彙化―逐字読み―語彙化の症状パタンを示した音韻失読例	音声言語医学	2021年
大森史隆,水本豪,飯干紀代子,山野貴史	クラスター分析に基づく在宅摂食・嚥下障害患者の類型化	難病と在宅ケア	2021年
大森史隆,水本豪,橋本幸成	仮名1文字の書取能力向上のために漢字1文字単語をキーワードとした訓練の有効性	音声言語医学	2022年
伊吹唯	日本社会における「日本人」像の再検討―日系帰還移民の「戦術的同化」からの考察		2022年
小嶋理恵子,柴田長生,山本美由紀	虐待を受けた子どもたちから学び直さなければならないもの-児童相談所で虐待対応に従事した助産師からの視点―	京都文教大学　こども教育学部研究紀要	2021年
徳永郁子,原口真由美,岩村純子,井上加奈子,荒尾博美	2年次基礎看護実習のルーブリック使用後における教員の意見の分析	熊本保健科学大学研究誌	2022年
渡邊淳子	全学必修科目「アカデミックスキルⅠ・Ⅱ・Ⅲ」実施報告	熊本保健科学大学研究誌	2022年
諸熊一則,友清和彦,高橋元秀	蛇毒素成分の解析研究の現状および国内の毒蛇咬傷患者治療の実態	熊本保健科学大学研究誌	2022年
佐々木千穂	医療的ケアを必要とする重症難病児の発達支援に関する合意形成における諸問題についての研究―養育者へのインタビューを通じて―	日本難病医療ネットワーク学会機関誌	2022年

【査読無】

著者・共著者	標題	掲載誌名	発行・発表年
甲斐村美智子	成熟期女性における月経周期に伴う問題:年代別特徴	Precision　Medicine	2021年
甲斐村美智子	月経周期に伴う健康問題と仕事への影響	BIO Clinica	2021年
甲斐村美智子	AYA 世代にある看護師の月経周期に伴う健康問題と仕事への影響	BIO Clinica	2022年
荒尾博美	看護実践能力のさらなる育成と学生の負担軽減を両立させる講義の構築	看護展望	2022年
久保高明	必勝カコもんPTOT共通(解剖・生理・運動学)		2021年
久保高明	必勝カコもんPTOT共通(臨床医学)		2021年
久保高明	必勝カコもん作業療法士		2021年
久保高明	必勝カコもん理学療法士		2021年
益滿美寿	脳卒中者の外出・旅行への支援	作業療法ジャーナル55巻8号　増刊号　脳卒中の作業療法最前線	2021年
山野克明	巻頭言　リハビリテーションの倫理	人間と医療	2021年
永友真紀	症状から理解する　はやわかり高次脳機能障害　「朝食を食べたのに、まだ食べていないと訴える患者(前向性健忘)」「プライドが高くリハビリを拒否する患者」	ブレインナーシング	2021年
山田和慶	特集 定位・機能神経外科の基礎と臨床. II 定位・機能神経外科手術の対象となる主な疾患「ジストニア」	脳神経外科	2021年
松原慶吾	オーラルフレイルと嚥下関連筋のサルコペニアの経時的変化について	BIO Clinica	2021年
松原慶吾	A Communication System for the severely dysarthric speaker with an intact language system	ディサースリア臨床研究	2021年
編集 大塚裕一　著者 宮地ゆうじ	授業・実習・国試に役立つ 言語聴覚士ドリルプラス～器質性構音障害～		2021年
池嵜寛人	家族や隣人とのトラブルで疲弊している家族	BRAIN NURSING	2021年
池嵜寛人	高次脳機能障害に関心のない医師	BRAIN NURSING	2021年
池嵜寛人	左片麻痺があるのに、そのことを認めない患者(片麻痺否認)	BRAIN NURSING	2021年
畑添涼	症状から理解する　はやわかり　高次脳機能障害	ブレインナーシング	2021年
蘭信三,李洪章,人見佐知子,福本拓,伊吹唯	方法としてのインタビュー	コスモポリス	2021年
Tanaka E	Akira Tamura. Expanding James Joyce: Intertext, Paintings, History [Joyce no hirogari: Intertext/Kaiga/Rekishi]	Journal of Irish Studies	2021年
編者:金井嘉彦,吉川信,横内一雄, 執筆者:小林広直,田多良俊樹,桃尾美佳,南谷奉良,平繁佳織,戸田勉,新井智也,湯田かよこ,岩下いずみ,河原真也,田中恵理,山田久美子	ジョイスの挑戦『ユリシーズ』に嵌る方法		2022年
飯山有紀	観察・アセスメントがどうして重要なのか	ブレインナーシング 2021夏季増版　脳神経疾患患者の観察・アセスメント	2021年
佐々木千穂	コミュニケーション支援の本質を求めて　-差異の体系を共に生きつつ、未来を拓くために-	日本難病看護学会誌	2021年
岡本健太郎,粟野宏之,齊藤利雄,西尾久英, 篠原正和,佐々木千穂	脊髄性筋萎縮症における摂食・嚥下障害	BIO Clinica	2021年
佐々木千穂	コミュニケーション支援の本質を求めて　差異の体系を共に生きつつ、未来を拓くために	日本難病看護学会誌	2021年
関孝敏,松浦尊麿(編著),竹熊千晶	地域から生えてきた-「ホームホスピスわれもこう」の取り組み	居宅介護と変容する家族像をさぐる「ホームホスピス」への取り組みを手がかりとして	2021年

【国際学会】

※本学の教員･研究員･学生には下線

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
Yamaguchi R,Yamaguchi Y	Adaptive Immunity: The Role of Toll-Like Receptors	The 6th Allied Health Sciences International Symposium 2021
Haraguchi M,Yamamoto T,Mori M,Kawaguchi T	Campus Safety Activities against COVID-19 at Kumamoto Health Science University	The 6th Allied Health Sciences International Symposium 2021
Noboruo I,Nambu M,Kawaguchi T,Kozuma Y.	Significance of measuring microparticles derived from stored platelets.	The 6th Allied Health Sciences International Symposium 2021
原口真由美,川北千鶴	Clinical Environment in Home Health Care for Nursing Students	The 6th Allied Health Sciences International Symposium 2021
Iwamura J,Inoue K,Tokunaga I,Arao H	ICE Rubric for the Evaluation of Clinical Practice in First-Year Nursing Students:Expectations as a Learning Support Tool	The 6th Allied Health Sciences International Symposium 2021
Iwashita Y, Wataru K, Maeda A, Yamada S, Sugimoto K,Iiyama J	Evaluation of mild systemic thermal stimulation in a polycystic kidney disease model mouse	World Physiotherapy Congress 2021 online
Kotegawa K	Individual differences in gait motor imagery related to working memory capacity	6th Allied Health Sciences Symposium
Sagari A,Tabira T,Maruta M,Miyata H,Han G,Kawagoe M	Causes of and changes due to ADL in older adults with long-term care needs	7th Asia Pacific Occupational Therapy Congress
Maruta M,Makizako H, Ikeda Y,Miyata H, Shimokihara S,Tokuda K,Kubozono R,Ohishi M,Okatsu H,Tabira T	Associations between depressive symptoms and satisfaction with meaningful activities and frailty in community-dwelling Japanese older adults	7th Asia Pacific Occupational Therapy Congress
Yamano K	A Consideration Regarding Professional Ethics Education for Occupational Therapy Students: A First-year Experience	The 6th Allied Health Sciences International Symposium 2021
Isaki M	Gaze behavior of children with autism spectrum disorder during naturalistic conversation	32nd International Congress of Psychology
Tanaka E	The Failure of the Old Tinbox Throw: The Emptiness of the Citizen's Identity and Nationalism in "Cyclops"	Omniscientific Joyce - The 27th International James Joyce Symposium
Matsuzaka Y,Takashima R,Sasaki C,Takiguchi T	Data Augmentation for Dysarthric Speech Recognition Based on Text-to-Speech Synthesis	IEEE LifeTech

【全国学会】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
Tanabe K,Kozuma Y	Protein phosphatase is involved in the maintenance of homo typical aggregation by CD40 stimulation in Ramos cells.	The 50th Annual Meeting of The Japanease Society for Immunology
Tokuhira M,Iriyama N,Watanabe N,Tsuchiya S, Takaku T, Nakazato T, Kimura Y, Sato E, Sugimoto K, Fujita H, Ishikawa M, Iwanag, Kawaguchi T.	Comparison among the patients with ND-CML-CP who received dasatinib, focusing on age.	第83回日本血液学会学術集会
Tokuhira M,Kimura Y,Nakazato T,Ishikawa M, Sugimoto K, Iriyama N,Tsuchiya S, Watanabe N,Takaku T,Fujita H,Sato E,Iwanaga E, Kawaguchi T.	Influence of age among the patients with newly diagnosed CML-CP who were treated with nilotinib.	第83回日本血液学会学術集会
川口辰哉	「DICTにおける支援チームと受援チームの役割」　委員会企画6. 災害時感染制御検討委員会、COID-19パンデミック時代の災害時感染制御支援チーム（DICT）活動.	36回日本環境感染学会総会・学術集会
正木孝幸	抗酸菌培養同定検査の深化と進化	第70回日本医学検査学会パネルディスカッション5
伊藤隆明	小細胞肺癌の分子病理学:神経内分泌分化機構からの展開	第110回日本病理学会総会
永田和美,亀山広喜,上妻行則,正代清光,登尾一平,立石多貴子,飯伏義弘,古閑公治,南部雅美	熊本保健科学大学のプレ OSCE への取り組みについて	第15回日本臨床検査学教育学会学術大会
荻泰裕,山田達之,木本奈那,氏原啓太,津村眞侑,木村契太,山本隆敏,川口辰哉	SARS-CoV2の抗原定量検査とRNA核酸定量検査における相関性の検討	第70回日本医学検査学会
山田達之,荻泰裕,木本奈那,氏原啓太,津村眞侑,木村契太,山本隆敏,川口辰哉	簡易RNA抽出によるSARS-CoV-2検出PCRキットの有用性の検討	第70回日本医学検査学会
山本隆敏,久原春代,原口実紗,池田勝義,楢原真二,竹屋元裕,川口辰哉	病院を持たない医療系大学における学内向けの新型コロナウイルスPCR検査体制の確立と地域感染制御への貢献を目指した学外向け応用への試み	日本感染症学会

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
田中綾香,正木孝幸	ブロイラー盲腸便より分離した薬剤耐性菌の細菌学的・遺伝子学的解析	第33回日本臨床微生物学会総会・学術集会
登尾一平,山本隆敏,田邊香野,南部雅美,川口辰哉,内場光浩,上妻行則	Bernard-Soulier 症候群様疑似検体を用いた血小板凝集能検査実習の試み	第15回日本臨床検査学教育学会学術大会
南部雅美,亀山広喜	ど素人のための消化管病理	第86回日本消化器内視鏡技師学会
南部雅美,西村和高,上妻行則,坂本亜里紗,亀山広喜	携帯電話を用いた国家試験対策支援ソフトの開発	第15回日本臨床検査学教育学会学術大会
立石大,知念拓磨,島垣和功,福田亮太,坂本亜里紗,三隅将吾,大塚雅巳,藤田美歌子,安楽健作	MAドメインとカルジオリピンとの結合を基軸とした抗エイズ薬の創製	日本ケミカルバイオロジー学会第15回年会
山鹿敏臣,松本珠美,嶋田かをる,安田大典,河瀬晴夫,友清百千,原口奈美,杉内博幸,楢原真二	医療系私立大学における「カラーユニバーサルデザイン（CUD）」の構築に向けて　その1 ～教職員のアンケート結果分析～	第15回日本臨床検査学教育学会学術大会
松本珠美,山鹿敏臣,嶋田かをる,安田大典,河瀬晴夫,友清百千,原口奈美,杉内博幸,楢原真二	医療系私立大学における「カラーユニバーサルデザイン（CUD）」の構築に向けて　その2 ～学生のアンケート結果解析～	第15回日本臨床検査学教育学会学術大会
安田大典,山鹿敏臣,松本珠美,嶋田かをる,河瀬晴夫,友清百千,原口奈美,杉内博幸,楢原真二	カラーユニバーサルデザイン（CUD）の構築に向けた、カラー文字に頼らない見やすい授業資料作成の検討	第34回教育研究大会・教員研修会
角マリ子,多久島寛孝	認知症カフェの現状と課題　4か所の認知症カフェの取り組みから	第41回日本看護科学学会学術集会
甲斐村美智子,福本久美子	育児中の母親とソーシャル・キャピタルに関する文献検討	第68回日本小児保健協会学術集会
戸渡洋子,荒木善光	COVID-19に伴う臨地実習制限が保健師選択学生の技術目標到達度に与えた影響について	第80回日本公衆衛生学会総会
井上加奈子	自らの教育実践をことばにし、省察する　-教師学研究の目指すところへ:実践者と若手研究者との対話	日本教師学学会 第23回大会
園畑素樹,橋本哲,記伊祥雲,馬渡正明,浅見昭彦,土井篤	神経再生誘導チューブを用いた神経ラッピング「スポンサードシンポジウム」「上肢末梢神経再建における新たな試み」	第64回日本手外科学会
岡本彬,福田耕平,上土井亮太,土井篤	短時間の低負荷自転車エルゴメータ運動による脳活動の上昇が運動直後と運動後20分後に起こる。	第26回日本基礎理学療法学会
高沢梨沙,峰岡貴代美,竹本朋子,井上勲,土井篤	慢性期脳血管障害患者に対する経頭蓋磁気刺激（rTMS）、生理食塩水による筋膜癒着リリース（ハイドロリリース）及び短期集中作業療法は上肢運動機能を促進させる	第55回日本作業療法学会
土井篤,高濱和夫,申敏哲,園畑素樹,記伊祥雲,橋本哲	シンポジウム4.疼痛リハビリテーションのフロンティア線維筋痛症に対する多面的リハビリテーションアプローチ	第14回日本運動器疼痛学会
武谷秀一,本山浩之,木下洋平,江口沙希,土井篤	Covid-19において家族支援に難渋した壮年期脳血管障害患者の一症例	第45回高次脳機能障害学会
本山浩之,武谷秀一,木下洋平,高沢梨沙,土井篤,高岩亜輝子,井上勲	基礎学力が高いびまん性軸索損傷患者に対する障害の見極めと教員になるまでの長期支援について	第45回高次脳機能障害学会
岩下佳弘	リハビリテーションの視点からの温泉医学	第86回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会
岩下佳弘,飯山準一	腎障害に及ぼす温熱の分子メカニズム	第58回日本リハビリテーション医学会学術集会
岩村健司,井崎基博,内山千鶴子,谷本愛裕美,野村恵子,岩村純子,岩下佳弘,小薗真知子,黒岩朝,兵頭政光	専門家が抱く言語発達障害と関連する各障害との関係性について	第56回日本発達障害学会
宇野勲,久保高明	高齢入院患者の入院時整容動作能力は院内肺炎発症リスクと関連する	第8回日本予防理学療法学会学術大会
神崎隼人,山本智史,久保高明	RSST回数に影響を及ぼす身体機能―喉頭位置,肩甲帯挙上筋力などの検討―	第26・27回 合同学術大会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
松原誠仁	熊本市中心市街地における車いす使用者のまちなか回遊支援アプリの実用化と有用性の検証　-車いす使用者のまちなか活動支援に提案に向けた取り組み その2-	2021年度日本建築学会大会
中原和美,岩下佳弘,水本豪,松見遥香,山野克明	コロナ禍の遠隔OSCEの実施と教員間及び教員・学生自己評価の一致性の検討	第10回日本理学療法教育学会
奥川洋司,爲近岳夫,山本理恵,津野田尚子,久保高明,安田大典,渡邊智,松本圭史,綱川光男,飯山準一	精油（1,8-cineole）含有入浴剤習慣が一般高齢者の認知機能に及ぼす影響	第86回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会
杉本和樹,前田曙,岩下佳弘,飯山準一	温熱刺激による腎皮質血流量の変動に対するTRPV4チャネルの関与	第86回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会
飯山準一,奥川洋司,久保高明,安田大典,爲近岳夫,渡邊智,石澤太市,松本圭史,綱川光男	精油加顔面頭部限局高温多湿環境が注意・集中,記憶,遂行機能に及ぼす影響	第86回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会
爲近岳夫,奥川洋司,山本理恵,津野田尚子,久保高明,安田大典,渡邊智,松本圭史,綱川光男,飯山準一	精油（1,8-cineole）含有入浴剤習慣がMCI高齢者の認知機能に及ぼす影響	第86回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会

令和3(2021)年度　学会発表

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
吉村友希,與座嘉康,久﨑孝浩,平岡斉士,久保田真一郎,鈴木克明	精神障害領域の臨床実習における困難な出来事に対する学生の心理行動パターンの違い	日本教育工学会2021年秋季全国大会
與座嘉康	ペーパーペイシェントを用いた非同期遠隔授業の試み	第34回教育研究大会・教員研修会
Yamaguchi Y, Tam P, Tanaka S	マウス発生過程におけるImportin13の役割について	第44回日本分子生物学会
吉村友希	学生への自己調整を促す授業実践	第34回教育研究大会・教員研修会
吉村友希	本学作業療法士養成課程における学内実習に関する報告	第34回教育研究大会・教員研修会
川崎一平,佐川佳南枝,益滿美寿,永井邦明,近藤敏	COVID-19流行下における高齢者の作業剥奪状態の調査研究　一世代間比較と新しい生活への適応一	第55回日本作業療法学会
川崎一平,佐川佳南枝,益滿美寿,永井邦明,近藤敏	高齢者を対象とした「ものづくり教室」のオンライン化の試み	第55回日本作業療法学会
白濱勲二,黒澤千尋,安田大典	COVID-19の流行が地域在住高齢者の活動範囲やQOLに与える影響	第55回日本作業療法学会
井﨑基博	助詞の繰り返しによる非流暢性発話が顕著な自閉スペクトラム症児2例	第47回日本コミュニケーション障害学会
井崎基博,岩村純子,岩村健司,友清百千,嶋田かをる	発達障害のある学生への学外実習での適格な合理的配慮内容	日本発達心理学会第33回大会
宮本恵美,大塚裕一,久保高明,爲近岳夫,高島利,船越和美,小田原守,境良太	食嗜好が嚥下機能に与える影響 ～咀嚼能力の視点から～	第26・27回 合同学術大会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
花田朋子,花谷亮典,山田和慶,轟木耕司,時村美香,厚地正道,吉本幸司	本態性振戦に対する視床集束超音波治療術後のMRI画像の経時的変化	第80回日本脳神経外科学会総会
山田和慶	不随意運動に対する DBS と凝固術	第41回日本脳神経外科コングレス総会
山田和慶	ジストニアに対する機能神経外科治療の現在と未来	第61回日本定位・機能神経外科学会
竹崎達也,山田和慶,浜崎 禎,河野達哉,武笠晃丈	進行期パーキンソン病患者に対する脳深部刺激術における術中レントゲン撮影の必要性に対する検討	第61回日本定位・機能神経外科学会
竹崎達也,浜崎禎,山田和慶,武笠晃丈	難治性振戦に対する両側視床刺激術の長期予後	第80回日本脳神経外科学会総会
宮本卓海,熊井良彦,松原慶吾,兒玉成博,折田頼尚	頸部屈曲位嚥下が有効な嚥下障害の病態および疾患の特徴	第26・27回 合同学術大会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
池田健吾,松原慶吾,越前谷克之,田中慎一郎	廃用症候群患者の嚥下障害に対する神経筋電気刺激療法に基礎訓練を併用した訓練がもたらす効果と有用性	第26・27回 合同学術大会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
田添琢己,池田健吾,松原慶吾,田中慎一郎	整形外科対象入院患者の摂食嚥下障害の有無とFIMとの関連性について	第26・27回 合同学術大会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
内田優希,池田健吾,松原慶吾,田中慎一郎	Wallenberg症候群の嚥下障害に対しバルーン法に舌の筋力増強訓練とShaker exerciseを併用して著効した一例	第26・27回 合同学術大会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
松原慶吾,古賀和美,水本豪,平江満充帆,池嵜寛人	勤労健常者における嚥下関連筋の量と質の性差および加齢変化の検討	日本摂食嚥下リハビリテーション学会 第26回・27回合同学術大会
池嵜寛人,畑添涼,兒玉成博,松原慶吾,水本豪	言語聴覚士自己効力感尺度の開発（第1報）一項目の検討一	第22回日本言語聴覚学会
平江満充帆,松原慶吾,古賀和美,水本豪	超音波検査における嚥下関連筋の量的・質的評価の信頼性について	日本摂食嚥下リハビリテーション学会 第26回・27回合同学術大会
池嵜寛人,松原慶吾,宮本恵美	客観的臨床能力試験が言語聴覚学専攻学生の興味・関心に与える影響	第34回教育研究大会・教育研修会
兒玉成博,鮫島靖浩,田代丈二,池嵜寛人,松原慶吾	多発性脳神経麻痺に対して嚥下改善術および嚥下訓練を施行後経口摂取が可能となった2例	第26・27回 合同学術大会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
伊吹唯	「地域社会によるオーラル・ヒストリーの継承の可能性と限界―『下伊那のなかの満洲』の事例から」	日本オーラル・ヒストリー学会第19回大会
内村香代子,飯山有紀	COVID-19を発症した認知症高齢者への意思決定の継続	第48回日本脳神経看護研究学会
佐々木千穂,菅原瑞貴,竹島久志	意思伝達装置の導入促進のための簡易型VOCA ソフトの開発	第22回日本言語聴覚学会

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
竹島久志,佐々木千穂,境信哉	音声喪失を伴う重度肢体不自由児のためのコミュニケーション発達支援システムの開発	第35回リハビリテーション工学カンファレンス in 北九州
佐々木千穂,竹島久志,境信哉,髙田政夫	音声喪失を伴う重度肢体不自由児のためのコミュニケーション発達支援システムを使用した事例報告	第35回リハビリテーション工学カンファレンス in 北九州
佐々木千穂,菅原瑞貴,竹島久志	導入用VOCAソフトを使用したALS患者に対する コミュニケーション支援の有用性についての検討 ―2事例への試用を通じて―	第9回日本難病医療ネットワーク学会
吉本拓真,高島遼一,佐々木千穂,滝口哲也	音響モデルの話者適応に基づく脊髄性筋萎縮症者の音声明瞭化の検討	日本音響学会2021年秋季研究発表会

【地方学会】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
知念拓磨,立石大,島垣和功,福田亮太,坂本亜里紗,三隅将吾,大塚雅巳,安楽健作,藤田美歌子	HIV-1 Gag MAドメインとカルジオリピン誘導体との結合解析	第38回日本薬学会九州山口支部大会
宮本真子,荻泰裕,山田達之,木本奈那,氏原啓太,津村眞侑,木村契太,山本隆敏,川口辰哉	SARS-CoV-2のRT-qPCR検査における異常データの検討	第53回熊本県医学検査学会
亀山広喜,中山陽平,立山弘樹,川畑小百合	Web セミナーにおける理解度向上のための GoogleForm の活用	第55回九州支部医学検査学会
木本奈那,荻泰裕,山田達之,氏原啓太,津村眞侑,木村契太,松中修一,山本隆敏,川口辰哉	熊本市医師会PCRセンターにおけるSARS-CoV-2検査の現状	第55回九州支部医学検査学会
山本隆敏,川口辰哉	病院を持たない医療系大学による地域感染制御への貢献を目指した新型コロナウイルスPCR検査体制の確立	第91回日本感染症学会西日本地方会
川口辰哉	免疫療法の新戦略:補体を制御する～ポストコロナ時代に向けて～	第62回九州リウマチ学会
申敏哲,行平崇,小牧龍二,田中哲子,福永貴之,亀山広喜,坂本亜里沙,吉村惠	感覚評価を用いたベンゾピレン投与ラットに対するβ-NMN の効果検討.	第72 回西日本生理学会
小牧龍二,福永貴之,行平崇,亀山広喜,坂本亜里沙,田中哲子,申敏哲	舌への触・圧覚刺激が脳血管性認知症モデルラットに及ぼす影響.	第72 回西日本生理学会
矢野賞太,爲近岳夫	他事業所からのコンサルテーションとして新卒作業療法士のフォローアップに関わった事例	第17回熊本県作業療法学会
山田和慶	機能神経外科領域におけるトピック - Adaptive DBS と経頭蓋集束超音波治療 -	第32回臨床神経生理研究会
寺岡沙耶,辻啓嗣,永友真紀	学習障害児における聴覚法の有用性-対象児が音声言語化した漢字と訓練者が音声言語化した漢字の比較-	第10回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会 福岡大会
池嵜寛人,畑添涼,兒玉成博,松原慶吾,水本豪	言語聴覚士養成課程の学生と新卒言語聴覚士における自己効力感の比較	第10回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会 福岡大会

【研究会･シンポジウム等】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
Yamamoto T,Shoudai K,Narahara S,Kawaguchi T	Campus Safety Activities against COVID-19 at Kumamoto Health Science University ～ In-house COVID-19 PCR testing system ～	The 6th Allied Health Sciences International Symposium 2021
田邊香野,上妻行則	PP2Aファミリー分子はRamos 2G.6細胞におけるIgEクラススイッチを抑制する。	第10回日本プロテインホスファターゼ研究会 学術集会
山崎真帆,鈴木純子,永井智子,戸渡洋子,小山千秋,窪田志穂,田村晴香,斉藤瑛梨,一色喜保,中島富志子	集まろう、つながろう、話そう　今日から活かせる教育実践のあれこれ～ラダーⅠ教員と考える「学生とともに育ち合う教育」～	日本公衆衛生看護学会（JAPHN）第10回学術集会/第6 回国際保健師ネットワーク（GNPHN）学術集会（合同開催）
藤村侑樹,木下亘耶,坂本桜香,宮本明,久保高明	挺舌運動による舌圧強化についての検討	第6回日本栄養・嚥下理学療法研究会学術大会
池嵜寛人,松原慶吾	モバイルヘルスデバイスを用いた会話量の評価の試み	令和3年度熊本県言語聴覚士会学術研究会
佐々木千穂	意思伝達装置導入促進のためのVOCAの必要性について	意思伝達装置導入促進のためのVOCAソフトの使用方法に関するオンライン講習会
吉本拓真,高島遼一,佐々木千穂,滝口哲也	モデル適応に基づく脊髄性筋萎縮症者の高明瞭度音声合成の検討	音学シンポジウム2021
佐々木千穂	コミュニケーション機器導入から見えること	難病の在宅療養支援者研修会
只野大貴,竹島久志,佐々木千穂	重度肢体不自由児コミュニケーション発達支援システムにおける文字学習教材の改善	令和3年東北・北海道地区高等専門学校専攻科産学連携シンポジウム

令和3年度決算報告

学校法人銀杏学園の令和3年度決算は、令和4年5月25日開催の評議員会及び理事会において承認されましたので、事業活動収支計算書、資金収支計算書、貸借対照表を掲載し報告いたします。

①事業活動収支計算書

令和3年度の経常収支差額は+239百万円と収支均衡を達成しており、**前年比88百万円増加**でした。これは収入面で**付随事業収入が前年比137百万円増加**したことによるものです。

②資金収支計算書

令和3年度の翌年度繰越支払資金は1,725百万円となり、**前年比93百万円減少**でした。これは有価証券の運用規模を**前年比395百万円拡大**したことによるものです。

③貸借対照表

令和3年度の総資産は10,645百万円、負債838百万円、**純資産9,807百万円**となりました。これらの前年比は総資産が+165百万円、負債が▲88百万円、純資産が+253百万円でした。

貸借を、資金の調達と運用という視点で見ると、純資産の増加253百万円から調達した資金を、負債の減少88百万円と、有価証券等の総資産増165百万円という二つの使途に運用した、ということができます。

事業活動収支計算書要約（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

（単位：千円）

科目			令和3年度決算	令和2年度決算	増減
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,000,425	2,003,155	△ 2,730
		手数料	33,195	33,405	△ 210
		寄付金	32,549	51,797	△ 19,248
		経常費等補助金	402,150	372,149	30,001
		付随事業収入	194,213	57,612	136,601
		雑収入	48,327	66,859	△ 18,532
		教育活動収入計	2,710,859	2,584,977	125,882
	事業活動支出の部	人件費	1,301,081	1,333,122	△ 32,041
		教育研究経費	992,693	946,223	46,470
		管理経費	233,638	198,248	35,390
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	2,527,412	2,477,593	49,819
	教育活動収支差額		183,447	107,384	76,063
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	56,002	43,896	12,106
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	56,002	43,896	12,106
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		56,002	43,896	12,106
経常収支差額			239,449	151,280	88,169

科目			令和3年度決算	令和2年度決算	増減
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	14,081	18,010	△ 3,929
		特別収入計	14,081	18,010	△ 3,929
	事業活動支出の部	資産処分差額	675	2,987	△ 2,312
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	675	2,987	△ 2,312
	特別収支差額		13,406	15,023	△ 1,617
〔予備費〕					0
基本金組入前当年度収支差額			252,855	166,303	86,552
基本金組入額合計			△ 232,300	△ 398,855	166,555
当年度収支差額			20,555	△ 232,552	253,107
前年度繰越収支差額			△ 3,589,941	△ 3,357,389	△ 232,552
基本金取崩額			379,179	0	379,179
翌年度繰越収支差額			△ 3,190,207	△ 3,589,941	399,734
（参考）					
事業活動収入計			2,780,942	2,646,883	134,059
事業活動支出計			2,528,087	2,480,580	47,507

資金収支計算書要約（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科目	令和3年度決算	令和2年度決算	増減	科目	令和3年度決算	令和2年度決算	増減
学生生徒等納付金収入	2,000,425	2,003,155	△ 2,730	人件費支出	1,281,448	1,331,963	△ 50,515
手数料収入	33,195	33,405	△ 210	教育研究経費支出	600,806	569,256	31,550
寄付金収入	32,456	46,142	△ 13,686	管理経費支出	193,630	155,377	38,253
補助金収入	409,748	381,484	28,264	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	100,000	100,000	0	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	194,213	57,612	136,601	施設関係支出	103,176	569,178	△ 466,002
受取利息・配当金収入	56,002	43,896	12,106	設備関係支出	126,003	118,460	7,543
雑収入	48,327	66,859	△ 18,532	資産運用支出	495,000	400,000	95,000
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	474,500	131,881	342,619
前受金収入	353,108	314,510	38,598				
その他の収入	176,167	37,392	138,775				
資金収入調整勘定	△ 447,823	△ 408,966	△ 38,857	資金支出調整勘定	△ 226,188	△ 372,298	146,110
前年度繰越支払資金	1,817,586	2,045,914	△ 228,328	翌年度繰越支払資金	1,725,029	1,817,586	△ 92,557
収入の部合計	4,773,404	4,721,403	52,001	支出の部合計	4,773,404	4,721,403	52,001

貸借対照表要約（令和4年3月31日現在）

（単位：千円）

資産の部			
科目	令和3年度末	令和2年度末	増減
固定資産	8,781,577	8,583,392	198,185
有形固定資産	6,790,593	6,975,544	△ 184,951
土地	1,504,743	1,504,743	0
建物	4,156,522	4,359,069	△ 202,547
その他の有形固定資産	1,129,328	1,111,732	17,596
特定資産	170,000	170,000	0
その他の固定資産	1,820,984	1,437,848	383,136
流動資産	1,863,078	1,896,411	△ 33,333
現金預金	1,725,029	1,817,586	△ 92,557
その他の流動資産	138,049	78,825	59,224
資産の部合計	10,644,655	10,479,803	164,852

負債の部			
科目	令和3年度末	令和2年度末	増減
固定負債	196,256	176,623	19,633
預り保証金	150	150	0
退職給与引当金	196,106	176,473	19,633
流動負債	641,866	749,503	△ 107,637
未払金	222,496	369,756	△ 147,260
前受金	353,108	314,510	38,598
預り金	66,262	65,237	1,025
負債の部合計	838,122	926,126	△ 88,004

純資産の部			
科目	令和3年度末	令和2年度末	増減
基本金	12,996,740	13,143,618	△ 146,878
第1号基本金	12,823,740	12,970,618	△ 146,878
第4号基本金	173,000	173,000	0
繰越収支差額	△ 3,190,207	△ 3,589,941	399,734
翌年度繰越収支差額	△ 3,190,207	△ 3,589,941	399,734
純資産の部合計	9,806,533	9,553,677	252,856
負債及び純資産の部合計	10,644,655	10,479,803	164,852

令和4年度予算報告

学校法人銀杏学園の令和4年度予算は、令和4年5月25日開催の評議員会及び理事会において承認されましたので、事業活動収支予算書、資金収支予算書を掲載し報告いたします。

①事業活動収支予算書

令和4年度の経常収支差額は±0百万円と引きつづき収支均衡は保たれていますが、**前年比239百万円減少**します。
収入の方の原因としては、前年度のPCR検査受託収入や熊本県新型コロナ補助金等の**一過性の収入の一服**です。支出の方では、研究活動の再開により**教育研究費が増加**することが影響しています。

②資金収支予算書

令和4年度の翌年度繰越支払資金は1,200百万円となり、**前年比525百万円減少**します。これは有価証券の**運用規模500百万円拡大**を計画していることが影響しています。

事業活動収支予算書要約（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（単位：千円）

科目			令和4年度予算	令和3年度決算	増減
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,028,000	2,000,425	27,575
		手数料	40,000	33,195	6,805
		寄付金	35,000	32,549	2,451
		経常費等補助金	373,000	402,150	△ 29,150
		付随事業収入	70,000	194,213	△ 124,213
		雑収入	36,000	48,327	△ 12,327
		教育活動収入計	2,582,000	2,710,859	△ 128,859
	事業活動支出の部	人件費	1,352,545	1,301,081	51,464
		教育研究経費	1,044,013	992,693	51,320
		管理経費	255,442	233,638	21,804
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	2,652,000	2,527,412	124,588
	教育活動収支差額		△ 70,000	183,447	△ 253,447
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	70,000	56,002	13,998
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	70,000	56,002	13,998
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		70,000	56,002	13,998
経常収支差額			0	239,449	△ 239,449

科目			令和4年度予算	令和3年度決算	増減
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	0	14,081	△ 14,081
		特別収入計	0	14,081	△ 14,081
	事業活動支出の部	資産処分差額	0	675	△ 675
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	0	675	△ 675
	特別収支差額		0	13,406	△ 13,406
〔予備費〕			30,000		30,000
基本金組入前当年度収支差額			△ 30,000	252,855	△ 282,855
基本金組入額合計			△ 480,000	△ 232,300	△ 247,700
当年度収支差額			△ 510,000	20,555	△ 530,555
前年度繰越収支差額			△ 3,190,207	△ 3,589,941	399,734
基本金取崩額			0	379,179	△ 379,179
翌年度繰越収支差額			△ 3,700,207	△ 3,190,207	△ 510,000
（参考）					
事業活動収入計			2,652,000	2,780,942	△ 128,942
事業活動支出計			2,682,000	2,528,087	153,913

資金収支予算書要約（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科目	令和4年度予算	令和3年度決算	増減	科目	令和4年度予算	令和3年度決算	増減
学生生徒等納付金収入	2,028,000	2,000,425	27,575	人件費支出	1,352,545	1,281,448	71,097
手数料収入	40,000	33,195	6,805	教育研究経費支出	661,013	600,806	60,207
寄付金収入	35,000	32,456	2,544	管理経費支出	218,442	193,630	24,812
補助金収入	373,000	409,748	△ 36,748	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	0	100,000	△ 100,000	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	70,000	194,213	△ 124,213	施設関係支出	288,887	103,176	185,711
受取利息・配当金収入	70,000	56,002	13,998	設備関係支出	191,113	126,003	65,110
雑収入	36,000	48,327	△ 12,327	資産運用支出	500,000	495,000	5,000
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	286,894	474,500	△ 187,606
前受金収入	314,000	353,108	△ 39,108				
その他の収入	133,313	176,167	△ 42,854	〔予備費〕	30,000		30,000
資金収入調整勘定	△ 424,342	△ 447,823	23,481	資金支出調整勘定	△ 328,894	△ 226,188	△ 102,706
前年度繰越支払資金	1,725,029	1,817,586	△ 92,557	翌年度繰越支払資金	1,200,000	1,725,029	△ 525,029
収入の部合計	4,400,000	4,773,404	△ 373,404	支出の部合計	4,400,000	4,773,404	△ 373,404

令和3年度事業報告

目 次

Ⅰ 法人の概要
1 建学の精神、基本理念及びミッション
2 沿革
3 役員・評議員等
4 設置する学校・学部・学科等
5 入学定員及び学生数
6 教職員の概要
7 卒業生の概要
Ⅱ 事業の概要
1 主な事業の内容
（1）全体概要
（2）教育に関すること
（3）研究に関すること
（4）経営に関すること
（5）業務運営・その他に関すること
2 学生の動向
（1）入学試験における志願等の状況
（2）国家試験の合格状況
（3）卒業生の進路状況
Ⅲ 財務の概要
1 事業活動収支計算書（過去5年分）
2 賃借対照表（過去5年分）
3 財務比率（過去5年分）

ここでは、Ⅱ 事業の概要の「1 主な事業の内容」を紹介します。

Ⅱ 事業の概要

1 主な事業の内容

（1）全体概要

2021（令和3）年度は、前年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、様々な制約を受ける中での大学運営が求められました。

本学では、新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動基準を定め、学生の安全確保を最優先に考えながら、危機対策本部において定期的に対応レベルの検討を行い、対面授業と遠隔授業を併用する形または全面的に遠隔授業に切り替える形での授業を実施しました。

保健医療系の国家資格を目指す本学の教育課程において、学外で実施される実習は、知識・技術を実践の場面で適用し、理論と実践を結びつけて理解する能力を養う場として重要なものと位置づけられています。厚生労働省からは、「実習施設において学生の受入れが可能となった場合は、実習施設と調整し必要な感染予防策を講じた上で、可能な限り臨地での実習を実施すること」と通知されています。この観点から、本学では大学独自のPCR検査体制を構築し、学外実習前に対象学生全員にPCR検査を無償で実施するなどして、より安心かつ安全に実習等が実施できるように努めました。

さらに、7月から8月にかけて医療職の資格を持つ学内教員（医師・看護師・保健師・薬剤師等）の人材を最大限に活かし、本学アリーナにおいて新型コロナワクチンの職域接種を実施しました。その結果、学部在学生の約90%が2回の接種を完了し、学内での活動においては集団免疫機能が働くことが期待できるようになりました。

また、本学の保健科学に関する専門的な知識と技術を活用し、スポーツを軸とした健康増進支援を目標として、熊本保健科学大学スポーツヘルスサイエンス事業を立ち上げました。併せて、令和4年度からリハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員を20名増員し、専攻内にスポーツリハビリテーションコースを新設することが文部科学大臣より認可されました。

法人関連では、それまで年2回実施されていた常勤理事協議会を発展解消し、常勤理事会として毎月開催するように改善しました。これにより、理事会の包括的授権に基づいて、理事長が学園の日常を迅速に決定することができるようになりました。

さらに、月1回の間隔で発行されてきた学内広報紙「NEWSLETTER」を、週1回 の“週刊”にリニューアルし、学内外のタイムリーな話題を届けるように改善しました。明るい情報を毎週共有することで、組織の一体化に役立つことが期待されています。

（2）教育に関すること

1）新カリキュラムの導入と既存カリキュラムの再評価

〔目標〕厚生労働省指定規則に沿ったカリキュラムの決定と既存カリキュラムの再評価（実行率100%）

- 医学検査学科、看護学科及びリハ学科PT専攻の新カリキュラムを確定した。保健師教育を学部教育からの切り離し新たな養成課程とすることは決定したが、その課程の詳細については次年度に引き続き検討することとなった。【目標達成率80%】
- 医学検査学科、看護学科、リハ学科PT専攻及び大学院の教育課程の変更に伴い、3つのポリシーの見直しを行った。
- カリキュラム改革に連動して全学的なアクティブ・ラーニングの導入を推進し、シラバスに記載されているアクティブ・ラーニングの実施割合が91%に達した。

2）アセスメントプランに基づいた学修成果の検証とフィードバック

〔目標〕アセスメントプランの着実な実行（実行率100%）

- アセスメントプランに基づき、以下のとおり実施【目標達成率100%】
  国家試験合格率、就職・進学率、進級・卒業率、中退率等の分析（4～5月）
  GPS-Academic（1年次4月）
  GPS-Academic（3年次10 ～ 1月）
  学修行動調査（1年次9月、2～4年次4月）→分析資料を共有フォルダ上で公開
  授業改善アンケート（前期：回収率63.4%、後期：回収率61.3%）
  卒業／修了時アンケート（2～3月）、卒業生アンケート（12月：回収率57.7%）
  就職先アンケート（10月：171施設を対象に実施し、78施設から回答）

3）SG担任を中心とした修学ポートフォリオ等を活用した学生支援

〔目標〕セメスターごとの学生へのフィードバック（実施率100%）

- SG担任による学生面談：コロナ禍の影響で指定学生及び希望学生のみ実施【目標達成率70%】
- 学生の修学ポートフォリオ活用率は前・後期合計95.7%であり、前年度より1.7%アップした。
- ディプロマサプリメントとしての活用：3年次以降必要に応じて学生が個別に出力できるような運用を開始した。

4）新型コロナウイルスの感染防止に配慮した教育体制の整備

〔目標1〕遠隔授業の整備と効果的運用及び感染リスクを軽減するための教育環境整備

〔目標2〕学外実習配置前の学生を対象としたPCR検査実施

- 遠隔授業への対応を優先し、FDとして実施していたアクティブ・ラーニングワークショップに代え、8月に遠隔授業実践報告会を実施した。【目標1達成率90%】
- 学外実習前の学生のPCR検査に関しては、計画的にほぼ100%実施できた。【目標2達成率100%】
- コロナ禍のため、リハ学科の臨床実習指導者との会議をオンラインで実施した。

・リハ学科（PT専攻・OT専攻）及び医学検査学科においてリハ学科ST専攻で先行的に導入しているOSCE（客観的臨床能力試験）を試験的に導入した。
・リハ学科において導入を促進しているクリニカル・クラークシップ（診療参加型臨床実習：CCS）について、PT専攻及びOT専攻においてはほぼ100%、ST専攻においては90%程度の施設で実施した。

（3）研究に関すること

1）共同研究講座による共同研究の拡充と学部・大学院研究への展開
〔目標〕共同研究講座と学部・大学院研究との連携の実現（連携事例1件以上）
・医療機関（熊本赤十字病院との破傷風研究）や研究機関（感染研との破傷風研究や東京理科大学とのGMP研究）との共同研究が進行中であり、その成果を学会（7件）や論文（3件）で発表した。
【目標達成率100%】
・共同研究講座の特命教授が担当する大学院の2つの講義（特論）を延べ7名が履修
・共同研究講座の特命教授が、大学院生2名の研究指導を担当

2）若手研究者の研究推進
〔目標〕学位取得の推進、学内教員との共同研究の実施、外部資金の獲得
・若手研究者の科研費メンター制度を導入した。また、学位支援（継続）が1件あり、進捗状況を検証した。【目標達成率80%】
・学内での研究ネットワーク形成支援として、サイエンス・カフェによる学内研究者の研究紹介を3回実施した。
・令和3年度申請分の外部資金（文科省科研費）として6件（うち若手研究1件）が新規採択され、令和4年度より予算執行の予定である。

3）動物実験施設に係る環境整備
〔目標〕動物実験施設の改修（今年度中）
・動物実験施設の改修計画を進め、次年度完成予定となった。
【目標達成率50%】

（4）経営に関すること

1）理学療法学専攻の収容定員増に向けた申請と準備／診療放射線系学科の新設に向けた設置準備
〔目標〕令和4年度入学生からの増員の実現／綿密な設置計画の策定と実施（今年度中）
・理学療法学専攻の収容定員増に向けた申請を行い、令和3年10月22日付で文部科学大臣から学則変更が認可され、令和4年度入学生からの増員に向けた準備を進めた。【目標達成率100%】
（定員増に伴い理学療法学専攻内に20名のスポーツリハビリテーションコースを新設することとしているが、そのコース修了者の目玉であったジャパン・アスレチックトレーナーズ協会認定のアスレチックトレーナー資格の認定校審査が難航しており、現在も審査が継続中である。別資格についても検討を始めた。）
・令和3年度は理学療法学専攻の収容定員増の実現に集中し、新学科等の開設に向けた検討は次年度以降に先送りすることとした。
【目標達成率0%】

2）財政の適正化による次の成長戦略のための体力回復
〔目標〕収支予算の達成（経常収支差額の予算達成率100%）
・経常収支差額±ゼロの収支予算に対して、コロナ禍に伴う支出の減少もあり、経常収支差額は2.4億円程度の大幅な黒字を確保できる見込み。
【目標達成率100%】
（ただし、今回の大幅な黒字はコロナ禍に伴う支出の減少に加えて、PCR検査の予定外の収益等などによるもので、STの定員未達などの課題が明確になった。来期は課題への対策と経費の適正使用を進める。）

3）10年後も20年後も選ばれ続けるためのブランディング／継続的な競争優位性を確立するためのマーケティング
〔目標〕独自性（個性）に基づいた差別化／競合他大学の動向を踏まえた競争戦略の実行（対計画進捗率100%）
・スポーツヘルスサイエンス事業を担当教員と協働して立ち上げ、活動の様子をマスメディアで報道するとともに、特別番組を制作して広報することで、競合他大学との競争戦略として、独自性（個性）に基づく差別化を図った。【目標達成率100%】
・中長期的な視点でのマーケティングの実施を計画していたが、令和2年度の志願状況が極めて厳しい結果であったため、まずは短期的な視点での対策として、志願者減に影響を及ぼした主な要因であると考えられたオープンキャンパス（キャンパス見学会）と高校訪問について、10～12月の3か月で重点的に実施した。
【目標達成率50%】

（5）業務運営・その他に関すること

1）大学の内部質保証体制の機能的確保
〔目標1〕アセスメントプランに基づく自己点検・評価の実行と改善（実行率100%）
〔目標2〕認証評価の結果を受けた改善への取組（改善目標に向けた取組率100%）
・教学マネジメント指針や各種規程を反映させたアセスメントプランの見直しを実施した。また、学外有識者を構成員とする大学評価委員会を3月に開催した。
【目標1達成率80%】
・教学IRによる分析と評価をアセスメントプランに従って適切に実施した。
・認証評価では指摘されなかったが大学独自に対応が必要であると洗い出した19項目について、対応策を検討する部署を提示し、必要に応じて改善を進めた。
【目標2達成率100%】
・IRデータを活用して自己点検評価書を作成した。

2）教職員の適正配置と能力向上
〔目標1〕事務部門における部署ごとの適正人員の洗い出しと確保（適正人数の確定）
〔目標2〕体系的なSD構築に向けた調査・研究（原案の作成）
・全国の私立大学における職員数（職員一人当たりの学生数）の平均値を基に、本学における目標人数を割り出した。また、退職補充に向けた次年度新規採用の計画を立てた。【目標1達成率50%】
・新規採用職員に対する研修について、試用期間（半年間）に複数の課の業務を体験するOJTに加え、事務部門管理職による職場内研修（12回）、月次レポートを用いた意見交換研修（5回）を実施し、定型の研修を固めることができた。
【目標2達成率50%】

3）新型コロナウイルス対策に関連した地域貢献
〔目標〕学内PCR検査体制の継続的運用と外部検体の受託検査
・外部検体の受託検査については、熊本県内のコロナ感染拡大の状況を受け、熊本市医師会からの委託をはじめとして年間で17,199件を受託した。【目標達成率100%】

令和4年度事業計画

学校法人銀杏学園　熊本保健科学大学　令和4年度の主な取組み

教　育

【令和4年度の「重点的な取組み」及び「達成目標」】

○アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）に適合した入学者確保
⇒学科専攻ごとの目標入学者数の確保（達成率100%）
⇒各学科専攻における志願者数の増加（対前年度比120%以上）
○エンロールメント・マネジメントの強化
⇒入学から卒業までのIRデータの蓄積と活用
○新コースの体制整備
⇒理学療法学専攻のスポーツリハビリテーションコース
（令和5年度の2年次生から開始）に向けた体制整備（実行率100%）
○新型コロナウイルスの感染防止に配慮した教育体制の整備
⇒遠隔授業の整備と効果的運用及び三密を避けた教育環境の整備
⇒学外実習配置前の学生を対象としたPCR検査実施

【中期計画の期間目標】 ★印は令和4年度の重点項目

★ 1) 優秀で意欲ある入学生の確保
★ 2) 教育内容の充実・洗練と質の保証
★ 3) 授業の質向上と学務IRの推進
★ 4) 教育結果の検証とフィードバック
5) 学外実習の充実
6) 学生の主体的活動の支援
★ 7) 国家試験対策の強化
★ 8) 就職支援の強化
9) 社会活動の推進
10) 国際力の向上

研　究

【令和4年度の「重点的な取組み」及び「達成目標」】

○若手研究者の研究促進
⇒学位取得の推進、学内教員との共同研究の実施、外部資金の獲得（対前年度 100% 以上）
⇒大学院生を含む若手研究者の研究環境の整備

○動物実験施設に係る環境整備
⇒動物実験施設の改修（対計画進捗率 100%）

【中期計画の期間目標】 ★印は令和4年度の重点項目

★ 1) 本学の特色を生かした共同研究の推進
★ 2) 若手研究者の支援
★ 3) 研究環境の整備
4) 外部資金の獲得
5) 研究費の効果的配分
6) 研究成果の社会への還元
7) 倫理規定の遵守

経　営

【令和4年度の「重点的な取組み」及び「達成目標」】

○第Ⅰ期（R1～R4年度）中期計画の評価と第Ⅱ期（R5～R8年度）中期計画の策定
⇒第Ⅰ期中期計画の達成度評価の実施／実効性のある第Ⅱ期中期計画の策定（令和4年度中）
○広報力の強化によるコミュニケーションの活性化とブランド力の向上
⇒〈学内広報〉コミュニケーションの活性化／〈学外広報〉ブランド力の向上（対計画進捗率100%）
○継続的な競争優位性を確立するためのマーケティング戦略の実行
⇒競合他大学の動向を踏まえた競争戦略の策定と展開
（対計画進捗率100%）
○財務分析による適切な組織別収支把握とそれに基づく財政の適正化
⇒学園全体及び組織単位での収支予算の達成（経常収支差額の予算達成率100%）

【中期計画の期間目標】 ★印は令和4年度の重点項目

★ 1) 中長期計画の実行とローリング
★ 2) ブランド力の構築・強化
★ 3) 財政の適正化
4) 組織の整備・拡充/人事・給与制度の適正化
5) 施設の活用・整備
6) 学費水準の検討/財源の多様化
★ 7) 病院・大学との連携/マーケティング
8) 奨学金制度の新設・拡充
9) 事務の効率化
10) 自己管理/内部監査

業務運営・その他

【令和4年度の「重点的な取組み」及び「達成目標」】

○教学マネジメント及び大学の内部質保証体制の機能性維持
⇒アセスメントプランに基づく自己点検・評価の実行と改善
（実行率100%）
⇒学長の補佐体制の構築（役割の明確化100%）
○職員の適正配置に向けた業務の可視化と能力開発
⇒事務部門業務分類のナンバリング等による業務の可視化
（実行率100%）
⇒体系的なSD構築の推進
（全学的な方針策定、現存のSD研修の体系化）
○新型コロナウイルス対策に関連した継続的な地域貢献
⇒学内PCR検査体制の充実と外部検体の受託検査
（感染状況に応じた対応）

【中期計画の期間目標】 ★印は令和4年度の重点項目

★ 1) 学長のリーダーシップによる大学のガバナンス強化
★ 2) 人事評価制度の改善及び教職員の能力向上
3) 職場の環境づくりの推進
★ 4) 評価の充実
5) 情報公開や情報発信等の推進
6) プラットフォーム形成への参画

オンライン留学生のレポート 国際交流 International exchange

オンライン留学のよかったことは？

医学検査学科 2年
堀 美寿季さん

オンライン留学を通して、英語をスムーズに話す力が身に付きました。最初は先生の話す英語になかなかついていけず大変でしたが、日を重ねる毎に自然と聞き取れるようになりました。また、参加者全員が明るく優しい人ばかりで、自分が何かを伝えようと必死なときには助けてくれたり、伝えられたときはたくさんリアクションしてくれたりと、自分の英語力に自信がなくてもリラックスして楽しく活動できました。活動を終えて、英語で何かを伝え話すことがより好きになり、また、今までよりもスラスラと話せるようになりました。1ヶ月という短い期間でしたが、とても充実した時間を過ごすことができました。

オンライン留学のよかったことは？

医学検査学科 2年
渡邊 真凛さん

初めの2日間くらいはとにかく緊張しました。ですが、クラスメイトや先生とすぐに仲良くなり、楽しく1ヶ月を過ごすことができました。分からないことがあればすぐに先生やクラスの子に聞くことができたので、授業で置いていかれることもなく、積極的に参加できました。また、空き時間にはお互いの国の観光地や、通っている学校、ドラマのことなど色んなおしゃべりをして、もっと仲良くなれました。今回のオンライン留学を終えて、英語を英語で学ぶことの難しさと楽しさを感じることができ、そして、いつか渡航できる日が来たら、もっと自分の言葉で自由に話せるように勉強を頑張りたいなと思いました。

Library

図書館ホームページ　https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library.html

○**2021年度は、図書館情報システムのサーバークラウド運用と図書のIC管理**にて、キャンパステラスまで拡大した図書館運用を実現しました。これにより、図書等を館内自由に持ち歩き、ICT機器等と連動したアクティブラーニング活用の幅が広がりました。また、自動貸出機の利用で、プライバシーが保たれ、スピーディで快適な貸出が可能となりました。

○長引くコロナ禍ですが、**前年度より対面講義が増加し、入館者も2.7倍**となりました。また、前年度に引き続き、遠隔授業や学外からの学修支援として、電子ブック884冊、映像データベース、電子ジャーナル等電子リソースの充実を図りました。コロナ禍での文献検索相談等は、個人ポータルやメール、電話でも対応しています。

○**2022年度4月から本格利用再開!**　閲覧席やキャンパステラスは、コロナウイルス感染予防対策を講じながら活発に利用しています。土曜開館は5月再開し、7月中旬からは、夜間開館（21時まで）も再開します。卒業生は、事前連絡後、ご利用いただいております。また、学生スタッフも2年ぶりに活動再開!新たな学生企画も開始予定です。（6月現在）

図書館蔵書の中から

映像配信データベースのご紹介

「EVO」「VISULAN」と2種類の映像配信データベースを契約しています。学内外から本学の学生・教職員が利用できます。「EVO」は、看護系を中心に61タイトル、「VISULAN」は、医療系全般で73タイトル。解剖生理、臨床検査、リハビリテーション等講義や実習、スマホでの自己学習に活用しています。

基本理念

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、以下の基本理念を掲げる。

1. 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う
2. 人間と社会に深い洞察力を持つ人材の育成
3. 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成
4. 豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材の育成

教育目標

1. 生命の尊厳と社会への洞察力を有し、自立できる人材を育てる
2. 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
3. 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
4. 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術を持つ人材を育てる

将来ビジョン　保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる

Vision 1　社会の変化に対応し、リーダーシップを発揮できる医療技術者の養成
- ビジョン 1-1　教育改革の推進と学生ファーストの修学支援
- ビジョン 1-2　独創的な研究の推進と大学院の充実

Vision 2　地域に根ざし、地域と共に歩み、社会の幸福実現に貢献
- ビジョン 2-1　教育・研究組織の充実
- ビジョン 2-2　魅力的な教育・研究環境の充実

Vision 3　10年後も20年後も選ばれ続けるためのブランド力の強化
- ビジョン 3-1　学生・教職員の国際力の向上と海外の大学等との連携強化
- ビジョン 3-2　教員と職員が協働する効率的・合理的な職場環境の構築

編集後記

本学ではアリーナに、教職員が利用できるフィットネスジムスペースがあります。現在は感染防止対策のために休館中ですが、再開されたらぜひ利用したいと思っています。